

平成 30 年度

事 業 報 告

社会福祉法人 品川総合福祉センター

## 目 次

法人事業報告	1
法人研修事業報告	7
安全衛生委員会事業報告	9
地域福祉課事業報告	11

### 障害者群

1. 障害者支援施設 かもめ園（知的障害部門）事業報告	15
2. 障害者支援施設 かもめ園（身体障害部門）事業報告	19
3. 障害福祉サービス事業 サンかもめ事業報告	23
4. 障害福祉サービス事業 鮫洲なぎさの家事業報告	25
5. 障害福祉サービス事業 さつき事業報告	27
6. 障害福祉サービス事業 福祉工場しながわ事業報告	31
7. 品川区立心身障害者福祉会館事業報告	35
8. 保育所 八潮中央保育園事業報告	49

### 高齢者群

1. 特別養護老人ホーム かえで荘事業報告	51
2. 特別養護老人ホーム 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告	55
3. 特別養護老人ホーム 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告	59
4. グループホーム八潮南事業報告	63
5. 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告	67
6. 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告	69
7. 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告	71
8. 在宅介護支援センター事業報告	73
9. 品川区立高齢者住宅 八潮わかくさ荘事業報告	75
10. 品川区立高齢者住宅 大井倉田わかくさ荘事業報告	77
11. 品川区立大井三丁目高齢者憩いの場事業報告	79

# 平成30年度 法人事業報告

## 1. 総括

品川総合福祉センター未来創造図（中長期基本方針・計画）5年目の中間検証を行い、3重点課題（人権尊重、人材育成、収支改善）を抽出、その改善に向けた中期経営計画（平成31年度から3か年）を策定した。法人全体で課題解決に向けた取り組みを進める。

品川区立心身障害者福祉会館の指定管理期間最終年に当たり、更新に向けプロポーザルに臨んだ。法人全体で同館の事業の改革に取り組む姿勢を前面に事業提案を行い、指定管理更新、事業を継続することができた。

品川区立八潮南特別養護老人ホームについては継続して経営再建に向け検討を継続し、ことに当年度は品川区から経営コンサルタントが派遣され、収支改善、職員教育に対しての支援を得て支出抑制、リーダー職員の育成が進んだ。

また各事業とも利用者ニーズに応えるべくサービスの質を高め、利用率の向上を進めてきたが、利用者の冬季のインフルエンザ、年度末の感染性胃腸炎の感染、高齢者施設職員の体調不調による利用調整等により高齢者施設の利用率は目標に達しなかった。

品川区からの受託事業大井三丁目高齢者憩いの場（大井三丁目ゆうゆうプラザ）は開所から2年目となり、高齢者を中心に多世代交流を進める地域の福祉拠点として事業は軌道に乗っている。

一方、近年の介護人材の採用が困難な状況は年を追うごとに厳しさを増し、採用試験は年間を通じ実施してきた。優秀な人材確保が法人の継続性にとり不可欠であり、人材の採用、育成、定着に向け採用活動、人材育成、働きやすい職場作りに力を尽くしてきた。

また、法人の職員給与、人事課題の解決に向けて人事給与制度検討委員会から答申が出され、その内容は職員に説明や確認の機会を設け、理解、協力を得つつ答申内容のとおり決定、実施された。

## 2. 諸課題解決に向けて

### (1) 事業管理

①大井三丁目高齢者憩いの場（大井三丁目ゆうゆうプラザ）は開所から2年目にはいり、各事業は小規模な拠点を最大限活用し、地域密着型の地域ミニデイ、園芸サークル他、高齢者を主に多世代交流を進める地域の福祉拠点として事業が定着した。9月に地域交流事業を実施した。

②品川区立心身障害者福祉会館は指定管理期間の最終年に当たり、次期の管理者指定に向け事業者選定プロポーザルが実施された。法人

は総力を挙げて臨み、品川区障害福祉計画の方針に沿い障害者各事業の改善に向けた内容を提案した。その結果次期も同事業については継続して指定事業者となった。

- ③社会貢献活動の一環として、施設機能の地域開放を行い、本部施設、在宅サービスセンターで認知症カフェを開催した。地域住民の認知度が高まり、自治会等からの講習開催依頼に対応した。

## (2) サービス管理

- ①当年度、職員の利用者への言葉による心理的虐待、身体拘束による身体的虐待が品川区により認定を受けた。前者は法人が状況を確認、品川区に通報、後者はその後の調査の中で利用者に対する身体拘束の管理上指標どおりの対応ができていないことが確認され認定された。当年度中に改善計画、報告を提出、法人全体、当該施設ともに重層的に改善対策を講じた。法人内では継続して研修その他において職員の利用者の人権意識やサービス意識の向上に向け対策を講じ、併せてサービス向上委員会、虐待防止委員会を定期的に開催して状況の把握と対応に努めるとともに、職員教育、人材育成、サービス点検を進め、法人の信頼回復に向け課題解決に取り組んできた。中期経営計画の重点課題の筆頭としても利用者の人権擁護を掲げ、継続して解決に向け法人全体で改善に取り組む。
- ②苦情解決第三者委員会・サービス点検調整委員会を適切に運営、委員からの助言等を利用者サービス向上に生かしてきた。また品川区サービス向上研究会の活動に積極参加、同会作成の品川区版サービス自己評価等を活用してきた。法人内では相互視察を実施、相互検証を機能させた。
- ③施設稼働率向上に向け、施設稼働率向上担当課長（高齢者施設・障害者施設）を引き続き配置、施設への支援体制を整え、経営会議で進行管理を行い、施設稼働率向上、収支改善の取り組みに努め、特別養護老人ホーム生活相談員連絡会を開催、サービス管理の課題の共有、解決策の検討を進めてきた。

## (3) 組織管理

- ①法改定に沿い、理事会や評議員会、役員等の役割や権限、責任の範囲を確認、変更した。また評議員選任・解任委員会委員を選任、開催した。
- ②財務規律の確立に向け、財務諸表に対する会計監査人による監査体制を整備、実施した。
- ③引き続き統括群を障害者群・高齢者群の2群に集約、効果的な施設経営の支援体制をめざし、情報共有、相互検証を進めてきた。また非常時等、統括施設長などによる施設長への支援体制、連絡調整を強化した。さらに施設長会やリーダー会も活発に活動し、組織活動、法人業務の担い手育成を強化した。

#### (4) 人事・労務管理

- ①法人の職員給与、人事課題の解決に向けて人事給与制度検討委員会の答申内容を広く職員に説明や意向確認の機会を設け、理解、協力を得つつ丁寧に進め、資格手当の創設、資格取得支援の増強を進め、当年度実施した。
- ②人事考課の改定をすすめ、実態に合わせた考課表の改正、考課結果は昇給から賞与への反映に変更した。
- ③職員採用に関しては、看護師、保育士はもとより、介護・支援員等も含め採用困難な状況が継続している。年間を通じ、応募者に合わせ採用試験を随時実施（年間29回実施）、一方では職員の定着を進めるべく職場環境の整備を進めてきた。それでも入所施設は若干名の職員の不足を来す状態が続き、実際には人材派遣会社からの派遣や紹介により必要な人材確保することが常態化、人材確保を進めることにさらなる工夫が必要な状況。
- ④内定者に対しては内定者懇談会を年内に開催するなど、人材確保に努め、一方ではメンター制度による人材定着に向け努力してきた。
- ⑤職員の健康・衛生管理の充実に向け、引き続き健康支援室は総務課付として労務管理との連動、機能強化を進め、法人全体では安全衛生委員会を活性化させ、働きやすい職場作りを推進してきた。職員休憩室の設定などは継続課題となっている。

#### (5) 人材育成

- ①引き続き、利用者の人権尊重、サービスの質的向上に向け、当法人の職員教育、人材育成、サービス管理他研修に力を入れてきた。一方では一般職員の監督職、管理職への昇格意欲に課題があることが鮮明となり、解決に向け法人全体で対策に取り組んできた。
- ②新採用職員の定着化向上に向け、メンター制度を継続、新任初期の支援体制を強化した。
- ③職員教育の一環としてリーダー会主導で職員の接遇チェックシートにより、年に2回のセルフチェックを行った。

#### (6) 地域交流事業

- ①地域交流事業は当年度より年に1回に集約、「しなふく紅葉フェスタ」として本部施設で開催した。より地域住民との交流が進む開催内容に変容させて10月に実施。
- ②大井三丁目高齢者憩いの場で地域交流事業「こすもすパーティー」を開催した。

#### (7) 施設整備等

本部施設において、安全性の向上に向け園庭の整備を行い、季節行事等の活用の活性化を進めた。

### 3. 会議

定款及び管理規程に基づき、また必要に応じ下記の会議を行った。

#### ①理事会、評議員会、監事監査等

4月20日 評議員選任、解任委員会

5月17日 会計監査人の会計監査

5月25日 監事監査 30年度事業報告・決算状況確認

6月 5日 理事会 30年度事業報告、決算、定時評議員会の招集等

6月22日 定時評議員会 計算書類、財産目録の承認、30年度監査報告等

8月18日 理事会 会計監査人の報酬に関する規程の一部改正、評議員会の招集

9月21日 理事会 補正予算、給与規程の一部改正、中期経営計画の策定について等

11月16日 理事会 組織及び経営に関する規程の一部改正、中延在宅サービスセンターのリフト入浴機器購入について、評議員会の招集事項他

11月16日 監事監査 年度中間期事業経過、収支状況報告

1月22日 評議員会 中間監事監査報告、補正予算、中期経営計画の策定について他

1月22日 理事会 30年度第2回補正予算、施設整備費補助（自家発電設備改修）

3月22日 理事会 31年度事業計画、当初予算、人事案件等

#### ②経営会議

月1回、理事長が開催、経営方針を検討する場とし、毎回前月迄の稼働率・予算進行管理、経営分析、進行管理を行ってきた。また、必要に応じて臨時の会議を開催した。

#### ③施設長連絡会

月2回開催、経営会議決定事項の周知、全体調整、情報の共有化を進めてきた。

#### ④防火管理委員会

法人の消防計画に基づき開催した。

#### ⑤安全衛生委員会

法令に則り、法人全体で月1回開催、職場の安全衛生向上を進めた。

#### ⑥虐待防止委員会

法人全体で月に1回、重層的に各事業所も適宜実施した。

#### ⑦リーダー会

月1回開催、事務局他全施設のリーダーが全体調整、情報の共有化を進めてきた。その他法人の課題解決に向けた検討を進めてきた。

#### 4. 研修

- ①研修委員会を設置、研修体系の見直しを行い、さらなる職員の定着化、モチベーションの向上、人権意識の定着が進むように変革させた。
- ②外部の人権研修等に積極的に参加し、その内容を事業所全体に周知させてきた。
- ③しなふく向上発表会・研修報告会を実施、法人内の情報共有を進めた。

#### 5. 防災

法人防災計画に沿って防災訓練・教育及び防災設備点検など実施した。  
法令に基づき法人内各事業所において、毎月、防災（避難、消火等）訓練実施。年に1回以上震災想定訓練を実施している。

#### 6. 広報

法人広報紙「しなふくニュース」を地域、利用者に発行、職員向けに職員報を発行した。

#### 7. 給食

- ①八潮中央保育園の給食業者を変更した。（前事業者の契約終了の申し出により）
- ②利用者サービスの根幹をなす食事の質的向上を目指し、各拠点で給食会議を実施した。



## 平成30年度 法人研修事業報告

### 1. 総括

社会全体が人材不足の状態の中、ことに介護・福祉業界はさらに職員採用が困難な状況が顕著になっている。当法人においても人材確保、育成、定着が大きな経営課題となっている。事業の継続性を担保するためにも次代を担う人材育成、施設サービスの質的向上を目指し、各職員への階層別研修、新任時の研修を強化した。平成27年11月に生じた職員の言葉による利用者への虐待に対して継続して法人全体で人権擁護研修を実施、その他新任、階層別研修においても利用者の権利擁護、サービス検証の内容を盛り込んできた。また同様の外部研修にも精力的に参加し、参加者がその内容を他者に周知することを確実に行ってきました。また非常勤職員への研修も進化させ、より実効性が高い内容としている。今年度は研修委員会を開催、研修の方針、内容の検討を進めることができた。

※中途採用職員研修は、次年度「新任職員研修」にて実施。

#### (1) 部門別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
新任職員研修	法人職員としての意識、誇りを醸成するとともに、基本的な知識や技術の習得を目指した。仕事での目標構築を側面援助する。	平成30年度採用職員および平成29年度中途採用の職員	H30年3月23日(金) (金～木) H30年3月29日(木)	36名
2年目職員研修	2年目を迎えた後輩指導が出来るような話術、行動の意識付け、さらに法人理念を再確認する。	採用後2年目の職員	H30年6月8日(金)	17名
3年目職員研修	3年目職員としての自覚を深め、法人組織における役割を認識し、行動に責任を持つ機会とする。	採用後3年目の職員	H30年7月13日(金)	20名
5年目職員研修	中堅職員としての組織での役割を明確に意識づけ、資質の向上を図る。	採用後5年目の職員	H30年10月5日(金)	9名
7年目職員研修	中堅職員としての更なるスキル向上の為、プレゼンテーション研修を実施し、伝達技術を磨く。	採用後7年目の職員	H30年11月9日(金)	6名
10年目職員研修	10年間のキャリアを振り返り、将来に向けての自己変革の契機とする。	採用後10年目の職員	H30年9月14日(金)	11名
リーダー職研修	大学名誉教授で法人のサービス点検調整委員より分かり易い福祉記録について事例研修により、現場におけるリーダーとしての資質を高める。	リーダー職	H31年1月15日(火)	27名
中途採用職員研修	年度中途の職員を対象に組織体制及び研修体制並びに認知症の症状及び予防を学習し、法人の理念及び介護技術等の基礎的な内容の習得を目標とする。	平成30年度中途採用の職員	H年月日()	名
非常勤職員研修	品川総合福祉センターの職員の一員として法人の理念を理解し、チームスタッフとしてそれを意識した行動ができるようにする。	非常勤職員	H30年10月12日(金) どちらかに参加	7名

(2) 目的別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
メンター研修	新規職員の相談役としてのメンターの役割や傾聴技術を学び、新人が職場に馴染み、独り立ちできるように支援する。	メンター担当等	H30年 5月 11日 (金)	14名
管理職・リーダー級昇任研修	管理監督者およびリーダー級としての役割、意識を醸成し、幹部候補生としての意識付けと育成を図る。	昇任者	H30年 5月26日(金)	15名

(3) 全体研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
しなふく向上発表会・研修報告会	各施設が取り組んでいるサービス向上の内容を発表し合い、相互に研鑽し合う。 また、法人を代表して外部研修を受講した職員が、内容を他の職員に共有する。	全職員	H31年 2月 1日(金)	161名
人権擁護研修	法人の苦情解決第三者委員会委員長で大学講師でもある福祉関係に精通している講師に「権利擁護と人権」の演題で講演。人権を理解し、虐待のない職場環境を構築する。	全職員	H30年11月30日(金)	207名

## 平成30年度 安全衛生委員会事業報告

1. 実施場所：法人本部会議室、月1回（第2月曜日）、年12回実施
2. 出席者：衛生管理者および各施設衛生推進者
3. 内容
  - 4月：安全衛生委員会の役割の確認、職員健康診断計画について
  - 5月：ストレスチェックについて
  - 6月：職員健康診断について、新人職員個人面談について、社会福祉施設の労災について
  - 7月：腰痛健診について、熱中症、食中毒予防について
  - 8月：腰痛健診について
  - 9月：インフルエンザ予防接種、夜勤者健診、風疹の予防について
  - 10月：インフルエンザ予防接種、感染症予防について
  - 11月：感染症、インフルエンザ予防接種について、夜勤者健診、子宮がん検診について
  - 12月：感染症、夜勤者健診、腰痛健診について
  - 1月：介護業務の負担軽減（アシストスーツの活用他）について
  - 2月：感染症予防、職場の環境改善について
  - 3月：健診結果、感染予防の基礎知識について
4. 他議題
  - ・各施設の感染予防について、
  - ・安全職場をめざして（ヒヤリハット・労災発生報告）
  - ・より良い職場づくりの実践（職場のコミュニケーション向上、ストレスの少ない職場作り）
  - ・法人内安全衛生委員会から（中延複合、八潮南、福祉工場しながわ）

\*労災件数：6件 入浴介助時の怪我が3件、原因の検証や予防策を検討した。

\*ストレスチェックを実施、398名がチェックシートを提出した。北品川クリニック産業医による面談（1名が職場環境におけるストレスで相談）を実施した。

\*年間相談件数は約200件、内容は、メンタル面（うつ状態、人間関係、職場環境など）、身体面（疾患に対して、健康診断の結果から）であった。新人、中途採用面談を年2回個別に実施、工場従業員相談を2ヶ月毎に実施した。新人および中途採用面談の結果は、職場環境改善の参考になるよう安全衛生委員会で報告した。

\*産業医相談は、本部・八潮南・中延複合の3ヵ所で各施設月1回の相談機会を設定し、本人や上司より依頼、および、産業医側より呼ぶことで相談を実施した。

\*健康だよりは、4回の定期発行、および、臨時号1回の計5回発行した。臨時号は、感染性胃腸炎の発生報告が安全衛生委員会であったため、特集として発行した。

\*心身共に健康に働くように相談支援等を実施し、法人における健康支援室として職員の健康増進に向けた側面支援機能として定着してきた。



# 平成30年度 地域福祉課事業報告

## 1. 総括

平成30年度の地域福祉課は、地域福祉力向上を目指し、地域交流活動・福祉教育活動・広報活動の実施に努めてきた。法人の理念である「地域とともに」を実践すべく、地域交流事業の見直しを行い「しなふく紅葉フェスタ」を開催した。ステージでは、参加型のゲームを行い施設利用者、地域住民が一緒に楽しみ相互理解を深めることが出来た。また、各種地域行事への参加や、「こどものつどい」では、企業ボランティア、青少年ボランティアしながら役立ち隊の協力で実施し好評を博した。大井三丁目高齢者憩いの場では、多世代交流が集う「ひなたぼっこ」の企画、運営を行った。

## 2. 事業内容

### (1) 各種教室

施設利用者を含めたコミュニティ作りとして、定期的に教室・サークル活動を実施した。

（各種教室実績）

事 業 名	実施回数	講師（ボランティア）	延人数	登録者数	実施曜日・時間
サークル	絵画教室	9	伊藤喜代美	78	第三日曜日 14:00～16:00
	生花教室	10	山田繁子	92	第二日曜日 13:00～15:00
	手話サークル 手話舞踊	10	森 みつえ	151	第一日曜日 13:00～15:00
	小計	29		321	47
コーラス会	コーラス会	20	中島はるみ	355	隔週土曜日 13:45～15:00
	八潮音楽祭	1	中島はるみ	5	平成30年12月15日
	小 計	21		360	29
	平成30年度総計	50		681	76
	平成29年度総計	53		667	87

（生花教室 5月休止）（絵画教室・コーラス7月台風の為休止）（8月は夏休みの為、休止）

### (2) 地域交流事業

利用者が地域社会の一員として地域住民に一層理解を深めてもらえることを願い、交流の場として行事を実施した。

### ① 《しなふく紅葉フェスタ》

日 時 10月28日（日）午前10時30分～午後2時30分

場 所 品川総合福祉センター1階ロビー（模擬店・作品展示）

駐車場（ステージ・模擬店）

かもめ園庭（ガーデンカフェ）

内 容 コンサート（利用者、ボランティア参加、）施設紹介パネル展示、センター利用者の手作り作品展示及び販売、模擬店、

参加者数 約860名

### 《地域行事参加》

地域において開催された行事に、地域交流の一環として、利用者とともに参加した。

5月 「八潮ファミリー運動会」

7月 「八潮連合自治会主催：八潮まつり」

8月 「八潮北地区避難所まつり」

9月 「区社会福祉協議会主催：ふくしまつり」

12月 「品川区障害者週間：記念のつどい」

### （3）《地域開放事業》

地域開放事業として、認知症を患っている方その家族、地域住民が集い、情報交換や相談支援を行い、相互に支えあう地域生活を推進することを目的に、認知症カフェ「オレンジカフェしなふく」&介護者教室を開催した。

・日 時 7月 7日（土）午後1時30分～午後3時30分

テマ 「認知症とその予防について」

講 師 荘原病院（認知症疾患医療センター）

地域医療連携室 森山美穂 氏

場 所 品川総合福祉センター 1階 喫茶しなっぺ

参加者数 30名

・日 時 11月17日（土）午後1時30分～午後3時30分

テマ 「認知症の人への対応」

講 師 特別養護老人ホームかえで荘リーダー 山田裕子氏

場 所 品川総合福祉センター 1階 喫茶しなっぺ

参加者数 20名

### （4）福祉啓発・教育

#### ① 《こどものつどい》

目 的 テマ 「手作り工作」「昔遊び」

地域の子ども達が、施設利用者との交流を持ちながら施設の理解や、高齢者・障害者への思いやりと優しい気持ちのあるかかわりを持つ機会となつた。

日 時 平成30年8月4日（土）午前10時～午後12時

講 師 品川あそびの会 代表 大上尚之 氏

内 容 工作、手品コーナーを体験した後、アイスキャンディ、わた飴、ポップコーン、ヨーヨー、射的を利用者とともに楽しみ、交流を図った。

参加者数 保護者を含め44名 利用者25名

(スタッフ) しながわ役立ち隊6名、区職員ボランティア1名、

ブルデンシャル生命保険株23名、中学生1名、

地域福祉課2名

#### ② 《青少年体験ボランティア2018》

品川ボランティアセンターの事業である青少年のボランティア活動の受け入れ態勢を整えていたが、希望者はいなかった。

日 時 平成30年8月28日～30日

#### ③ 《ボランティアのつどい》

当法人で活動しているボランティアに感謝し、さらに充実したボランティア活動を推進するために講演会を行い情報交換の場として交流を図った。

日 時 平成31年3月2日（土） 午前11時～午後1時30分

講 師 市川脩氏

「不可能を可能に！ 四肢麻痺障害者の挑戦」

演 奏 サックス アンサンブル

参加者数 ボランティア78名 利用者11名 来賓9名

講師 1名 職員37名 合計 135名

#### ④ 《教育機関からのボランティア体験学習・見学の受け入れ》

\*教育機関からの福祉教育実践の場として、ボランティア体験学習を受け入れた。

学校と各施設との連絡調整等を行った。

- |              |            |      |      |
|--------------|------------|------|------|
| ・ 八潮学園9年     | 10月3日      | 福祉講座 | 66名  |
| ・ 玉川聖学院高等部1年 | 10月24日～25日 | 職場体験 | 5名   |
| ・ 品川学園4年生    | 11月27日     | 福祉講座 | 117名 |
| ・ 品川区大崎中学校   | 2月 8日      | 福祉講座 | 56名  |

#### ⑤ 《ボランティア講座の実施》

日時 平成30年3月20日

目的 植物や園芸手法を利用するリハビリテーションとしての園芸療法を学び、福祉援助や地域ボランティアへ繋がるボランティアの育成を行う。

内容 「園芸療法とは」

講師 澤田みどり氏

NPO法人 園芸療法研修会代表理事

恵泉女子大学人間社会学部特任准教授

参加者数 18名

### (5) 広報活動

〈しなふくニュース〉(年4回 各1, 800部発行 No.135～No.138)

品川総合福祉センターの広報紙「しなふくニュース」の編集、発行を行った。

〈ボラボーラ〉(年4回各 400部発行)

平成7年12月から、八潮団地向けミニ情報(B5サイズ1枚)として発行。

内容は、お知らせ、ボランティア募集等。

#### (6) 募金活動

赤い羽根共同募金 10月1日「街頭募金」 大井町駅・旗の台駅・青物横丁駅  
東日本大震災復興支援・熊本地震復興支援隨時

#### (7) その他 〈器具・器材などの貸し出しサービス〉

地域行事・関係機関などに対して、地域交流の一環として協力。  
綿あめ機、ポップコーン機、焼き鳥機、かき氷機、餅つきのセット、テント、  
椅子、長テーブル、音響装置、車椅子、他。

### 3. 事務局活動

#### ①後援会事務局

- ・後援会役員との連絡調整
- ・幹事会、総会の開催
- ・会費、寄付金、募金箱などの会計処理
- ・後援会ニュース年2回発行
- ・その他必要な事務

#### ②連合家族会事務局

- ・連合家族会役員との連絡調整
- ・その他必要な事務

### 4. ボランティア

ボランティアの受け入れ窓口として、施設とボランティアとの連絡調整をした。

#### 〈ボランティア活動実績〉

〔注〕 人数・延べ日数は、月の合計を12か月分集計したもの

施 設	平成30年度		平成29年度		平成28年	
	人數	延べ人數	人數	延べ人數	人數	延べ人數
かえで荘	210	339	207	357	217	327
かもめ（身体）	72	113	107	173	102	179
かもめ（知的）	177	402	199	433	203	444
さつき	0	0	0	0	0	0
サンかもめ	58	108	60	135	68	116
八潮在宅サービスセンター	299	853	313	764	339	771
大井在宅サービスセンター	246	502	305	745	277	611
中延特養	409	660	414	705	410	935
中延在宅サービスセンター	285	731	255	708	308	905
福祉工場しながわ	0	0	0	0	0	0
心身障害者福祉会館	229	361	261	412	283	461
八潮南特養	25	264	26	225	34	249
大井三丁目高齢者憩いの場	165	183	279	331		
地域福祉課	281	316	373	393	313	368
合 計	2456	4832	2799	5381	2554	5366

# 平成30年度 かもめ園(知的障害部門)事業報告

## 1.総括

4月1日に新規利用者が1名入所した後、入退所者ではなく52名で推移した。

利用者の状態に即した3階での対応は定着し、健康面、活動面においてその方の生活に合った支援を行なってきた。特にリハビリや散歩などのほか、皆様の好きなにぎやかな曲に合わせた体操など、室内でもできるだけ体を動かし、体力づくりに役立つ活動を実施した。

しかし年度後半には体調を崩す方も多くなり、1月から3月にかけてインフルエンザA型、ウィルス性胃腸炎等が発生した。同時に加齢や状態の重度化等により、発熱や内科的な不調者も続いたため、通常の健康管理に加え、症状の早期のうちに医療に相談又は通院するなど、努めて重症化しないよう対応した。

東京都福祉保健局による実地検査を受け、虐待防止に関する掲示物等の改善やサービス提供記録の利用者確認などを整備した。また、東京都福祉サービス第三者評価により、家族調査及び利用者調査を実施し、サービスの向上に努めた。また定期的に虐待防止委員会を開催し、利用者の人権を重視し適切なコミュニケーションを図り、支援の向上を目指して意見交換を行なった。

対応の困難な緊急のケースについて、会館支援センター、福栄会及び品川区と連携して短期入所を受け入れた。

## 2.利用者状況(平成31年3月31日現在)

### (1) 利用者状況

(単位:人)

	性別および事由	合計	29年度
退所者	なし	0名	女性1名、男性1名
入所者	女性1名	1名	女性1名、男性1名

### (2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	1	6	13	7	27
女性	0	0	0	6	7	12	25
合計	0	0	1	12	20	19	52

### (3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	1	1	6	8	9	0	2	0	27
女性	1	3	1	10	2	6	1	1	25
合計	2	4	7	18	11	6	3	1	52

・平均年齢 男性 56.1歳 女性 59.3歳 全体 57.7歳 (平成29年度 57.1歳)

### (4) 関係機関

(単位:人)

品川	大田	江東	葛飾	足立	北	台東	八王子
43	3	1	1	1	1	1	1

### 3. 支援経過

#### (1) 支援全般

「個々人が希望する暮らしの実現」を方向性に、個別支援計画に則り支援を進めた。職員2人～3人の複数担当制とし、医務、給食等、多職種と連携した。

高齢化や身体状況の変化により医療的な対応等が多くなり、体調面を細かく観察しながら健康管理を行った。

また日常の活動を重視し、グループによる日中活動や個別活動のほか、行事や外出、旅行など、生活の中での楽しみを拡大していくように支援した。

#### (2) 生活介護日中活動

##### ①課題別活動(小グループ)

活動グループを見直し、リサイクル、運動、調理等のほか、創作活動（ものづくり）を充実させた。（A班）季節行事の装飾作り、（B班）毎月の掲示用飾りや誕生日カード作り、（C班）画材（木片や木の実など）を集めたり模造紙アート等を中心に行なった。各グループが連携して作品を仕上げた。

##### ②課題別活動(個人)

各利用者の活動（買い物・創作・身辺整理・調理等）を設定し、職員とマンツーマンでかかる時間とした。入院中の利用者の面会等にも出かけた。

##### ③全体活動

第1、3金曜日に全体活動を実施。運動会、餅つき、バーベキュー、スイカ割り、流しそうめん、味噌作りなど、季節に応じた行事や全体で行うレクリエーション等を行なった。利用者の積極的な参加があり、多くの方が楽しむことができた。

##### ④他のサービスを利用

サンかもめ、第一しいのき学園（生活介護）、さつき（就労継続支援B型サービス）へ日中に通所した。通所先の各種行事等にも参加している。

利用人数

（単位：人）

	さつき	第一しいのき学園	サンかもめ	合計
男性	2		2	4
女性	2	1	2	5

#### (3) 施設入所支援

利用者の希望に沿って、散歩や、理美容などの外出の他、季節に応じた生活行事やレクリエーションなどを企画実施した。サークル活動の一部見直しを行なった。

食事形態、排泄の支援方法等については、加齢による変化、身体機能の変化等に的確に対応できるよう、担当職員を中心に看護師、栄養士とも連携し、利用者の負担の軽減を図った。

(4) サークル活動 (単位:人)

	実施回数(年間)	参加人数(延)
コーラス	19回	302
生花	5回	48
茶道	12回	144

(5) 行事 (単位:人)

行事名	実施日	内容	参加人数
お花見	4/1	新年度顔合わせ。観桜	49
個別旅行	月 1回～2回	一泊・日帰り旅行	52
納涼会	8/26	流しそうめん、他	52
バイキング食	年 4回	希望献立に因る会食	48
紅葉フェスタ	10/28	模擬店・生け花	52
遠足	11/7	みかん狩り	51
八潮音楽祭	12/15	コーラス	5
クリスマス食事会	12/23	家族・ボランティア	120
初窯	2/10	新年初手前・会食	12
送別会	3/24	年度末納会	48

(6) 健康管理

定期健康診断を実施し、健康の維持と疾病の早期発見に努めた。インフルエンザの予防接種を実施したが、1月から3日の間に29名が同A型に罹患。いずれも医師からの処方を受け、数日で改善した。その他に、ウィルス性胃腸炎の診断を11名が受けたほか、内科の疾患による発熱、嘔吐などが多く発生した。その他の感染症の発生等はなかった。肩関節の脱臼、膝蓋骨のずれなどの入院等があった。

通院・入院・嘱託医受診。

(単位:人)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	13	21	23	15	23	24	30	32	28	48	10	20	287
入院	1	2	1	0	0	0	3	1	1	1	3	3	16
受診	23	12	16	8	36	32	35	14	9	5	14	11	215

(7) 給食

利用者の満足できる食事内容、食事形態での提供に努めた。毎月第3金曜日に給食会議を開催。食事に関する状況を把握し、献立、検食、食事提供の仕方などについて検討、事業者と調整を行なった。選択食は毎週水曜日に実施したほか、バイキング食(年4回)は、テーマを決めて地元の食材など活かし「甲信越地方」「九州地方」「ドイツ」「四国地方」などを実施した。普段食べることができない食材などもあり、好評だった。

疾病・年齢・身体機能に対応した特別食を実施した。

(単位:人)

きざみ食	粗きざみ食	ペースト食	制限食 1400cal	制限食 1600cal
13	14	2	3	5

(8) サービス点検調整委員会

委員による利用者との面談を開催、日々利用者の抱えている様々な思いを聴取し、委員と施設との連携を図りながらサービス向上に取り組んだ。

(9) 苦情解決第三者委員会

平成30年8月・11月（臨時開催）・平成31年1月に開催した。

(10) 東京都サービス評価

利用者調査及び家族アンケートを実施。課題を家族会において報告した。

(11) サービス向上委員会

「利用者の人権、生活を守るためのチェックリスト」を定期的に実施して、自己評価を行った。職員間の連携等について検討協議した。

(12) 虐待防止委員会

定期的に虐待防止委員会を開催し、利用者の人権を重視し適切なコミュニケーションを図り、支援の向上を目指して意見交換を行なった。

4.研修・会議

(1) 研修

法人研修計画に基づいた研修及び、資格取得のための研修等に参加した。

(2) 会議

職員会議、ケース会議、生活会議、給食会議、役職会議を開催  
個別支援計画会議、中間点検、事業計画会議等を実施した。

5.家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

10月、3月に支援計画に沿って個別面談を実施。内容を協議、確認した。

(2) 地域交流

地区夏まつり、ファミリー運動会、八潮音楽祭等へ参加した。近隣からの資源回収、リサイクル等を行ない、地域に貢献し繋がりの強化を図った。

(3) ボランティアの協力

洗濯たたみ、サークル活動指導、コーヒー提供、傾聴、調理活動補助等、長く継続的にかかわっていただき、利用者の状況や気づいた点、今後の活動の提案などもいただいている。

6. 短期入所事業(定員3名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	20	15	17	16	20	17	21	18	19	14	17	15	209
女性	9	10	9	12	10	10	12	15	10	9	8	11	125
児童	2	2	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2	22
計	31	27	27	30	32	28	35	35	31	25	278	28	356
利用日数	156	151	126	142	140	162	155	151	165	113	129	162	1,752
年間平均稼働率	161.3%						年間平均稼働率 29年度 185.0%						

7. 防災

法人の防災計画に従い防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を実施した。

# 平成30年度 かもめ園（身体障害部門）事業報告

## 1. 総括

利用者の生活環境の改善と感染及び疾病予防としてフロア一全体に蒸気式加湿器を設置した。その結果、インフルエンザの罹患者が0名であり、利用者の健康維持と管理の徹底が出来た。3月末に胃腸炎症状が発生したが、短期間で終息する事が出来た。検体検査ではウイルス等は不検出であった。

利用者の人権擁護と虐待予防は、継続して虐待防止委員会の開催や研修の参加等を行い、意識定着を推進した。

家族との連携では、事業説明会にて施設からの情報発信を積極的に行った。

在宅利用者について卒後対象者の受け入れを行った結果、安定した通所につながり、施設支援に対しても好評を得ている。

短期入所は支援センターと協力し、緊急利用に柔軟な対応を継続した結果、長期利用となつたが、安心した入所先の調整等が行えた。一方で他区からの利用希望も継続してありニーズに応えた。

東京都福祉サービス第三者評価は、家族調査及び利用者調査を実施し、サービスの向上に努めた。

## 2. 利用者状況（平成31年3月31日現在）

### （1）入退所状況（単位：人）

		性別及び事由		合計	
入所者	男性	在宅より入所		1名	
		他施設より		1名	
	女性	在宅より入所		1名	
退所者	男性	死去		1名	
		療養型病院等		1名	

### （2）障害区分

（単位：人）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	1	7	4	3	10	25
女性	0	0	3	7	5	7	22
合計	0	1	10	11	8	17	47

### （3）年齢別

（単位：人）

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	1	0	6	6	7	4	1	25
女性	0	1	6	6	3	5	1	22
合計	1	1	12	12	10	9	2	47

・平均年齢 男性 58.4歳 女性 58.7歳 全体 58.5歳（平成29年度 58.0歳）

### （4）関係機関

（単位：人）

品川	世田谷	中野	足立	江戸川	江東	東大和	町田	合計
40	1	1	1	1	1	1	1	47

### 3. 支援経過

#### (1) 支援全般

利用者一人ひとりの個別ニーズを汲み取るため個別面談を年2回実施し、個別支援計画に反映させた。個別支援計画の実行については個別支援時間の活用や外出支援等を工夫し、利用者本人のニーズに応えられるようにした。

#### (2) 生活介護目中活動

##### ①生産活動

能力、適性に応じて2つのグループに編成し、工賃を支給した。

参加人数 (単位:人)

	軽作業	七宝・創作	合計
男性	13	1	14
女性	4	8	12
合計	17	9	26

##### ②療護活動

レクリエーションの他、リハビリにヨガを取り入れた運動を講師の指導のもと、月一回実施し、利用者に好評を得た。また、活動内容が新聞記事に取り上げられた。

参加人数 (単位:延べ人数)

	ヨガビリー	音楽セラピー
男性	83	122
女性	100	78
合計	183	200

##### ③他サービスの利用

法人内他施設のサービスを利用した。

参加人数 (単位:人)

	男性	女性	合計
就労継続支援 B型さつき	4	1	5

#### (3) 施設入所支援

年中行事や余暇支援として各サークル活動を行い、潤いのある生活を目指し、支援した。園外レクリエーションでは少人数での旅行を企画し、個々のニーズに合わせ外出支援を実施した。単独外出が難しくなった利用者のニーズに応えるべく買い物や外食等に行くお出かけ便を継続した。

#### (4) サークル活動

(単位:人)

	実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)
書道	6	21	勉強会	12	179	カラオケ	9	125
料理	11	157	言語	4	60	お出かけ便	28	54
園芸	12	67	パソコン	9	37			

#### (5) 行事

行事名	実施日	内容	利用者参加人数
お花見	4/3.5.7	公園にて桜鑑賞と食事	34名

スポーツ大会①	5/27	駒沢公園	3名
スポーツ大会②	6/2	駒沢公園	7名
日帰り旅行	随時	外出支援	19名
一泊旅行	随時	外出支援	19名
七夕	7/7	七夕飾り他	28名
納涼会	8/9 8/14	食堂 花火（駐車場）	40名 33名
ふれあい寄席	10/18	落語鑑賞	9名
しなふく紅葉フェスタ	10/28	作品展示・模擬店	36名
クリスマス懇親会	12/9	会食（家族・ボランティア招待）	41名
新年会	1/4	新年顔合わせ	40名
初詣外出	1月随時	池上本門寺・川崎大師	22名
節分	2/3	豆まき	31名

#### (6) 健康管理

嘱託医による検診、歯科往診等を定期的に行った。定期健康診断を実施し、インフルエンザ予防接種は42名に実施した。体調変化による通院や転倒骨折による長期入院があった。インフルエンザの罹患者は0名であったが、3月末、胃腸炎症状が18名に罹患したが、短期間で終息することが出来た。検体結果では、ウイルス等は検出されなかった。また、利用者の健康面を家族に来所して頂き、直接嘱託医から話を聞く機会を設けた。

#### 通院・入院・嘱託医受診状況（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	8	8	7	17	15	8	12	12	20	33	28	26	194
入院	2	2	1	2	2	2	2	2	3	3	2	2	25
受診	47	33	22	25	39	28	31	30	23	27	26	30	361

#### (7) 給食

嚥下困難な方へなめらか食、ペースト食、個別対応食を提供した。月一回給食会議を実施し、行事食の一つとして年3回のバイキング食事会を企画した。  
特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食)（単位:人）

減塩食	制限食 1300Kcal	制限食 1400 Kcal	制限食 1600 Kcal
9	1	2	3
キザミ食	なめらか食	粗キザミ食	ペースト食
16	2	16	4
			4

#### (8) サービス点検調整委員会

毎月1回、希望者を中心に委員との面談を実施。一人ひとりの状況確認とより良い支援のあり方について助言を得てきた。

#### (9) 苦情解決第三者委員会

平成30年8月・11月（臨時開催）・平成31年1月に開催した。

#### (10) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価において利用者調査を受審し、サービス向上に取り組んだ。

### (1) サービス向上委員会

「障害の重度化・高齢化対策」「リスク管理」「医療的ケアと楽しい食事」「虐待予防」のテーマの課題解決の取り組みをしなふく向上発表会で実践報告を実施した。

### (2) 虐待防止委員会

毎月一回職員会議の後に実施。利用者支援状況の確認を行ない、職員個々の人权意識を高めてきた。

## 4. 研修・会議

### (1) 研修

外部研修として東京都・全国社会福祉協議会・品川区社会福祉協議会等の主催の研修に参加した。

### (2) 会議

職員会議、ケース会議、役職会議、給食会議、生活会議、生産活動会議などを開催した。

## 5. 家族・地域との関わり

### (1) 家族との連携

事業説明会を6月に開催した。また12月の施設行事前に家族の集いを開催し、施設からの情報発信を積極的に行った。その後、行事参加を促進し交流を深めた。また、利用者の健康管理や生活面に関して随時連絡や手紙の発送など、情報共有の強化を行った。

### (2) 地域交流

区内各イベントにおいて生産活動の作品販売を実施した。区内大崎中学校及び品川学園で福祉教育講座を実施し、利用者がパネラーとして参加した。

### (3) ボランティアの協力

サークル活動、理髪、外出支援等多くの支援でご協力をいただいた。

## 6. 短期入所事業(定員2名)

### 利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	6	4	7	5	4	6	6	5	5	4	7	5	64
女性	5	5	5	6	8	9	9	11	9	7	8	8	90
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11	9	12	11	12	15	15	16	14	11	15	13	154
利用日数	59	50	60	74	82	105	103	106	117	96	108	104	1,064
30年度 年間平均稼働率	145.7%				29年度 年間平均稼働率	106.6%							

## 7. 防災

法人本部の防災計画に従い、防災訓練、災害時事業継続計画（BCP）訓練を行った。

## 8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	特になし
-----------	------

# 平成30年度 サンかもめ事業報告

## 1. 総括

近年、利用者の高齢化、障害の重度化が進み、個々の利用者の障害特性、状態の変化に合わせた支援がより必要になっている。今年度はその足がかりとして、現状の把握、検証を行った。利用者支援にあたっては障害の特性を理解し個々に寄り添う支援が重要である。その一つとして品川福祉カレッジ外部講師派遣研修（半年間）を受け、行動障害に関する知識や個別支援の基本的な考え方を再認識する機会を設ける等、支援にあたっての専門性の向上に努めた。

稼働率については、新規利用者の定着までに数か月がかかったが、その後順調に利用率が上がり、年間平均稼働率は94%と目標を達成することが出来た。

## 2. 利用者状況(定員 30人) 《平成31年3月31日現在》

### (1) 年齢構成 (人)

	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18~20代	5	6	6	7	7	6
30代	7	6	6	5	7	5
40代	2	1	2	1	2	2
50代	0	1	0	2	1	1
60~70代	4	2	4	1	4	1
平均	3.8	3歳	3.7	7歳	3.7	7歳

### (2) 障害区分 (人)

	平成30年度				
	男性	女性		男性	女性
区分1			区分4	8	4
区分2		1	区分5	4	2
区分3	2	4	区分6	4	5
			合計	18	16

### (3) 在所期間状況 (人)

	1年未満	1~2年	2~5年	5年以上	10年以上
利用者数	1	3	2	9	19

## 3. 支援経過

個別支援計画に沿って、音楽・リハビリテーション・手芸・紙漉き・散歩などの日中活動や外出活動を通して個々の自己実現が可能となるよう支援を心がけた。又リサイクル活動、地域行事への参加、作品（アールブリュット）発表の場の確保等利用者と地域をつなぐ活動にも力を入れた。

(1) 生産活動による収益（円）＊平成31年3月31日現在

作業	資源回収	ビーズ作品	その他	合計
収入	18,598	300	0	18,898

(2) レクリエーション・行事

	内容	回数
外出活動	東京タワー・萩中公園プール	8回
地域参加行事	ふくしまつり（9/8）	1回
レクリエーション	ダンス 調理 創作(アールブリュット) スポーツ大会 季節行事(七夕、かき氷、初春ドライブ、豆まき) クリスマス忘年会 年度納会	52回

(3) 健康管理

嘱託医による応診を毎月1回、健康診断年1回実施、歯科医による口腔ケア毎月2回、通所時バイタルチェック、体重測定を毎月1回実施した。

(身長測定は年に1回) インフルエンザ予防接種年1回実施

(4) 給食

委託業者は一富士フードサービス(株)で継続した。誕生日リクエスト食(34回) 選択メニュー(12回) バイキング食(2回)を実施した。又必要に応じて、食形態の変更や高カロリー食、制限食、代替食、減塩食等の対応をした。

(5) 送迎サービス

30名が送迎サービスを利用した。(内6名が車椅子用リフトを使用)。

(6) 延長支援事業

利用者実数	年間実施日数	年間利用延べ時間	年間送迎利用数
14名	210日	747時間	399回

4. 会議・研修

支援・職員会議毎月2回、モニタリング会議(半年毎)、給食会議毎月1回  
外部研修、虐待防止研修、法人内研修、サービス向上発表会等に参加。その他品川福祉カレッジ外部講師派遣研修に参加し、行動障害の事例報告を行った。

5. 家族・地域支援(ボランティア・実習生受け入れ)

(1) 保護者会(年2回)、保護者参加行事(クリスマス忘年会)を実施。

(2) 福祉関係実習生5名、教職介護体験実習2名

定期ボラ(配膳補助など)5名を受け入れる。活動延べ日数94日

6. 防災

施設防災訓練(避難誘導等)12回(内地震想定6回、館内合同防災訓練2回)

7. 虐待防止への取り組み

虐待防止委員会や職員会議(現任研修等)の中で利用者の人権尊重について確認、支援方法について振り返りを実施し、職員の人権意識を高めた。

# 平成30年度 鮫洲なぎさの家事業報告

## 1. 総括

世話人の入れ替わりがあったが、安定した生活支援を進める事が出来た。

利用者の家族も高齢となり、帰宅が難しくなってきている中、休日の過ごし方についても、支援の必要性・重要性が高くなっている。特に外食や外出、行事等への参加の促進、コミュニケーションや話題性の提供により、社会性が保たれる部分も大きかった。行事としては、近隣散策の外出が好評であった。

また、夏のバーベキューを通じて地域の方とも交流も定着してきている。また、地域の防災訓練にも、東大井全体での防災訓練にも参加できた。

食事の提供も、宅配業者から食材料を購入しての、メニューに従い決められた調理を実施しての提供も安定してきた。また、外食の実施これにより、少しずつ体重減少の結果が出て来ている面が見られている。健康管理を考え、カロリーや栄養価管理がより重要であり、最適な食事提供を今後も継続していく。

## 2. 利用者状況（平成31年3月31日現在）

### (1) 年齢

年齢層	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	平均年齢
人数	1	0	2	3	1	0	47.0歳

### (2) 入所元 (人)

入所元	自宅	入所施設	他グループホーム	計
人数	5	1	1	7

### (3) 日中就労、通所先 (人)

通勤・通所先	就労継続A型	就労継続B型	生活介護
人数	1	5	1

### (4) 入退所

4月に1名退所。翌5月に1名入所。

## 3. 支援経過

### (1) 支援全般

世話人と利用者の関係作りや生活も安定してきており、出来る限り、自主性を尊重して、自己選択・自己決定に配慮した日課作りを進めた。

個々の問題に対しては、個別面談、全体ミーティングを実施した。利用者への対応としては、傾聴に努め、必要な助言を行った。

## (2) 食事

利用者の体重増加、栄養管理等を考慮して、民間業者の食材の宅配により食材料を購入、そのメニューに従って、現場での食事作り、提供を継続実施した。安価な食材費での提供と栄養管理的にも行き届いており、その効果は健康面で徐々に出て来ている。一方では多様な食事・嗜好に対しては、近隣の中華料理、回転すし、レストラン等で食事機会を設けた。また、誕生日でケーキでのお祝いも継続して実施した。これらにより、栄養面での健康管理と豊かな食事、気分転換を含めた食事という両面において有意義な食生活であったと考えている。

## (3) 生活・行事等

個々人の生活リズムを尊重した基本的生活支援を行い、個人の生活を大切にした掃除や洗濯等の基本的生活要素の自立支援及び余暇支援等を行った。他、余暇活動として、カラオケ、散髪、ドライブを実施、また、お花見会、初詣、横浜中華街外出を実施した他、区内各法人のお祭り等にも参加した。

## (4) 健康管理

健康管理として、持病を抱えている利用者3名は定期通院に付添し、担当医に日常の経過報告を正確に伝え、治療を進めるとともに、服薬管理や健康管理への助言、支援を行ってきた。また、区民検診、インフルエンザ予防接種は全員実施した。

## 4. 会議・研修

東京都グループホーム研修会に参加。個別支援計画打合せ、PCP（パーソン・センター・プランニング＝本人を中心とした支援）会議を実施。

## 5. 就労、通所支援

(1) 各通所施設等への職場訪問を行い、先方事業所との連絡を密に、通所、就労状況の把握と諸課題解決への調整、連携に努めた。  
(2) 施設通所利用者には施設の保護者会や行事に世話人が出席し、連携を図ってきた。

## 6. 家族・地域との関わり

保護者会を1回実施した他、出席できない家庭には、「家庭訪問」や「個別面談」を実施した。必要に応じて家族と連絡をとり、課題の解決を図ってきた。また、地域交流行事として「バーベキュー」を近隣地域住民などを招いて実施、参加人数も増え定着してきた。

## 7. 安全管理

避難訓練（防災・震災）を年間12回実施。

非常通報装置設置。日本防災通信協会の指導あり。

地域の合同防災訓練に参加。

以上

# 平成30年度 さつき事業報告

## 1. 総括

平成30年度、軽作業では昨年度から引き続き、品川区からの委託販売事業 ウェディング会社の砂袋入れ、アロマポット洗浄は順調な受注であったが、全国各地の災害発生により物流が悪くなり、市場関係の売り上げが落ち込んだ。

花ふきんは福祉ショップでの売り上げやバザー、個人注文で安定した売り上げとなっている他、都庁ショップ KURUMIRU での販売を継続している。（都内3店舗） 安定した受注により、作業量の調整・工賃の確保に努めている。

クリーニングでは、法人内施設のリネン、区立保育園等は順調。ハイウォッシング（株）（美容室タオル）からの受注が安定的に大量にあり、作業量、収入共に増加した。また、新規で数社から業務委託があった。

喫茶売店については、各メーカー価格上昇や冷凍食品の仕入れ先が少なくなってきたおり、新規開拓にあたっている。また、昨年度同様他機関からの助言を受け、販売商品の差し替え、陳列方法の変更等を実施した。今後も継続していく。

利用者状況では新規の利用が7名あり、若干の退所者はいたが、余暇支援にも力を入れた結果、月平均稼働率99.7%となった。

## 2. 利用者状況

### （1）主事業所（八潮団地8号棟、軽作業他）

①現員27名のうち14名が身体障害者、8名が知的障害者、5名の重複障害であり、男性18名、女性9名。平均年齢は50.7歳と高齢化が顕著。

②6月に1名、8月に1名、9月に1名入所。

③身障手帳16名（1級5名、2級6名、3級2名、4級2名、5級1名、6級0名）愛の手帳（2度4名、3度3名、4度4名）である。

④在所期間は、平均で11.2年程度である。

### （2）従事業所（法人本部1階、クリーニング、喫茶、売店）

①現員26名のうち24名が知的障害者、1名重複障害、1名が精神障害であり、男性14名女性12名である。

②4月に1名、6月1名、7月に2名入所。

平均年齢は45歳と高年齢化が進んでいる。

③愛の手帳（2度5名、3度14名、4度6名）。

④在所期間は、平均で16.0年程度である。

## 3. 支援全般

### （1）授産売り上げ、工賃実績

授産売り上げ (単位：円)

作業班	平成30年度	平成29年度	平成28年度
軽作業	4,799,168	5,372,392	4,764,740
軽作業（清掃）	296,400	296,400	296,400

自主製品	1,234,023	1,213,011	3,312,975
喫茶・売店	23,273,780	22,973,404	23,830,106
クリーニング	30,213,683	29,766,222	27,782,707
合計	59,817,054	59,621,429	59,986,928

工賃実績 (単位 : 円)

	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
軽作業・支給総額	4,130,157	4,721,842	4,439,150
軽作業・最高額	19,140	15,351	14,950
軽作業・月平均額	9,099	7,809	7,012
クリーニング・支給総額	11,692,715	9,523,998	8,916,713
クリーニング・最高額	40,963	35,910	32,868
クリーニング・月平均額	22,474	21,591	18,735

(2) 日課

時間	日課	時間	日課
8 : 30	利用者通所	13 : 00	作業開始
9 : 00	朝礼・体操	14 : 30	休憩（水分補給）
10 : 30	休憩（水分補給）	14 : 45	作業開始
10 : 45	作業開始	16 : 00	作業終了
12 : 00	昼食・休憩	17 : 00	掃除作業終了

(3) 支援活動（旅行、行事、生活活動）

【旅 行】	(日帰り)		
	5/19	横浜中華街	3 名
	6/29	千葉方面	4 名
	7/21	はとバスツアーア	4 名
	(宿泊)		
	6/15～16	茨城方面	4 名
	10/19～20	鬼怒川方面	5 名
	11/16～17	箱根方面	4 名
	11/30～12/1	群馬方面	5 名
【行 事】			
(バス旅行)	3/16	山梨方面	23 名
(生活活動)	2/2	調理活動	13 名

#### (4) 健康管理

- ①定期健康診断は年1回実施、聴打診、尿検査の他、胸部X-P、血液一般、心電図等実施。
- ②嘱託医による健康相談を毎月1回実施（主は第2火、従は第3火）。

#### (5) 食事

月1回選択食を実施。

栄養給与表は次の通りである

（日本人の食事摂取基準2015年版普通にて算出）

エネルギー	脂 質	タンパク質	カルシウム	鉄
439kcal	11.2g	17g	148mg	2.4mg
レチノール当量	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食塩
130μg	0.24mg	0.24 mg	28mg	2.1 g

#### (6) 就労支援その他

就労継続支援A型移行、一般就労等 なし

### 4. 会議、研修

#### (1) 会議

- ①職員会議を毎月実施、その他個別支援計画会議、アセスメント会議、現任研修、虐待防止委員会を実施した。
- ②サービス向上委員会を職員会議後に開催。

#### (2) 研修

日 程	内 容	職 員	主 催
6/6	高次脳機能障害者相談支援研修会	1	東京都福祉保健局
8/26	発達障害者基礎講座	1	東京都発達障害者部会
9/30	障害者の生涯学習を考える	1	文部科学省
11/8、9	職業リハビリテーション研究・実践発表会	1	障害者職業総合センター
12/1	発達障害者相談支援研修	1	東京都福祉保健局
2/12	福祉施設経営研修(施設長のための社会福祉法人会計入門研修)	1	東京都福祉保健局
2/19	利用者の権利擁護と虐待防止に関する研修	1	東京都福祉保健局

### 5. 実習生

実習生は介護福祉士、保育士の実習生を受け入れた。

大学等から青山学院短大1名、有明教育芸術短大1名、東京福祉大学1名、帝京大学1名、品川介護専門学校等3名の学生を受け入れた。

### 6. 防災

主事業所はピッコロ・にじのひろば八潮と共同して防災訓練等を実施した。  
従事業所は本部内の施設と共同で防災訓練等を実施した。

### 7. 家族との関わり

保護者会を増やし、家族や、本人にお集まりいただき、施設運営内容の説明会、連絡事項、相談支援等の中身について情報提供等を実施した。

以上



# 平成30年度 福祉工場しながわ事業報告

## 1. 総括

清掃事業は、ふれあい作業所から34カ所の公園清掃を請負、その他臨時で清掃を請負った。清掃単価は年度内に単価交渉し、次年度は平米単価が微増となっている。

製パン事業は、新規企業への販売が始まり、収入は微増となっている。

製陶部門では、受注は昨年度同程度であるが、年度内に単価交渉し次年度単価増となっている。また、引き続き環境整備・改善に努めている。

就労会計全体では、昨年度比で大幅な改善となっている。

事業所では、事業所内研修、東京都、東社協知的発達障害部会研修等、職員学習会などの機会を通して障害者差別解消法、人権意識の向上に努めた。

## 2. 利用者状況 (平成31年3月31日現在 単位:38人)

### (1) 年齢構成 (平均年齢44.9歳)

	10歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	計
男	0	2	6	14	4	2	28
女	0	0	1	5	4	0	10

### (2) 在所期間状況 (平均在職13.8年)

	0~2年	3年~	5年~	10年~	計
男	1	1	9	17	28
女	0	0	2	8	10

### (3) 障害区分別 (愛の手帳)

### (4) 採用実績

	2度	3度	4度	計
男	0	12	16	28
女	0	6	4	10

新規採用人数	
男	女
0	0

### (5) 退職者等 1名

### (6) 実施機関:品川区37名、江東区1名

### (7) 賃金支払い実績 (単位:円)

	支払い総額
平成30年度	58,233,892
平成29年度	58,754,256
平成28年度	56,708,012

最 低

円に改定。

平成30年10月1日東京都  
賃金改定、時給958円から985

## 3. 支援・業務経過

### (1) 支援全般

従業員1人ひとりに適した作業環境の整備に心がけ、適時作業場所の変

更を行い、安定した作業が出来るように働きかけた。また従業員の精神面の支援として、家族等も含め面談を随時実施した。

#### (2) 日課、作業状況

##### ○第1業務(8:00～16:00)

	場 所	30年度	29年度	28年度
公園清掃	区内公園	35公園 3933回	35公園 3699回	34公園 3677回
	鮫洲公園	244回	244回	243回
建物清掃	14箇所	延 3555回	延 3504回	延 3887回

##### ○第2業務(7:00～19:00)

	回数	内 容
店舗開店日	288日	通常営業(パン製造・販売)
定例外部販売	204日	小野学園、大井林町、八潮南GH、学研 城南職業能力センター、清泉女子大、ニコン他
出張販売・出店	26回	福祉祭り、地域行事、法人行事、学園祭他

##### ○第3業務(8:00～16:00)

骨壺種類	30年度	29年度	28年度
7号(大人用)	6590	6600	6499
6号～3号	298	330	290

#### (3) 作業支援

社会人として従業員個々が考え方責任感を持って仕事に取り組めるよう働きかけ、また仕事に対して自信を持ち、社会的自立へつながるよう援助した。

#### (4) 行事等

7/27 納涼会(29名)・10/7～8一泊旅行(21名)・12/21忘年会(28名)

#### (5) 健康管理

健康診断(法定)を実施、健診後のフォローも産業看護職と協力して相談、改善へと繋げている。

#### (6) 食事

昼食は信頼性の高い弁当業者と契約、適温で弁当を提供している。

### 4. 会議・研修・見学／体験

#### (1) 会議

種 類	回数	内 容
職員会議	12回	各事業の運営状況の検証、改善検討、情報共有他
ブチレーブ会議	12回	運営状況全般の検証、改善検討、販売促進計画策定
個別支援計画会議及び評価会議	2回	個別支援計画会議及び作業評価会議

(2) 研修

研修日	研修名	研修日	研修名
6/27	安全運転管理者講習	10/15.16	防火管理講習会
6/28.29	関東社会就労センター協議会 研究大会 in 東京	10/16.17	経営改善セミナー
8/9.10	てんかん基礎講座	11/12.13	GAP 入門と HACCP 導入のための食品衛生管理セミナー
10/30.11/29.30	東京都サービス管理責任者研修	1/7.8	相談支援従事者研修
9/11	食品の適正表示推進者育成講習会	1/10	食品表示法講習会
10/5	東京都育成会大研修会	1/25	「製パン力 向上研修会」
10/10	品川区食品研修	3/6	食品表示適正推進者講習会

事業所内研修	10名	・自閉症の障害特性の理解と支援 ・虐待を防ぐために ・虐待について（事例） ・虐待防止について（心理・認定外・経済）
資格取得	1名	サービス管理責任者（就労） 1名

(3) 実習生（介護福祉、東社協）

介護福祉士実習生 2名

(4) 見学／体験（利用者）

品川特別支援学校・小学部 23名・中学部 20名

伊藤学園・中学生 1名 豊葉の杜学園・中学生 1名

港特別支援学校・高校生 1名

5. 家族・地域社会との関わり

(1) 家族会（年1回実施）

事業運営経過説明、最低賃金改定についての説明等を行っている。

(2) 地域社会との関わり

近隣住民の方達への挨拶と近隣地域清掃を実施している。

6. その他

(1) 防災

内 容	回数	内 容
火災想定訓練	5回	火災想定、避難誘導、危機意識の醸成
地震想定訓練	5回	地震想定、避難誘導、危機意識の醸成
風水害想定訓練	2回	備品確認、各所継走連絡訓練

(2) 売上状況

(円)

売上	第1業務 (清掃)	第2業務 (パン工房)	第3業務 (製陶)	合計
平成30年度	62,366,304	28,952,297	35,173,700	126,492,301
平成29年度	59,567,698	32,296,749	34,484,694	126,349,141
平成28年度	59,530,155	27,267,398	33,870,200	120,667,753



# 平成30年度 品川区立心身障害者福祉社会館事業報告

## 1. 総括

品川区立心身障害者福祉社会館の指定管理期間最終年に当たり、更新に向けプロポーザルに臨んだ。法人全体で同館の事業の改革に取り組む姿勢を前面に事業提案を行い、指定管理更新、事業を継続することができた。

事業遂行状況は、品川区内における障害者福祉のセンター機能を担う事業所として、引き続き、品川区障害者福祉課との連携を図り、①自立訓練センター②生活介護事業③障害者生活支援センター④地域活動支援センターの4つの機能を軸として、利用者の総合支援を進めてきた。

自立訓練事業においては、訓練の目的・機能をさらに明確化して事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換を密にし、支援の連携体制の強化に努め、結果就労につながった方も数名いた。

障害者生活支援センターにおいては、品川区における障害者支援拠点化に向けて事業を遂行するため、検討会や自立支援協議会部会へも積極的に参加した。

地域活動支援センターにおいては、区内在宅障害者を対象に個別ニーズに対応した各種相談に応じる他、日常生活の充実、自立に向けての援助としての事業や個別指導を行ってきた一方では、サロンの運営や障害別支援事業等、特色を持った事業を展開した。

生活介護事業においては、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援を継続し、また生産活動のプログラムを強化した。

## 2. 支援経過

### (1) 苦情解決・サービス向上

- ① 法人の苦情解決第三者委員会の規程に従い苦情、要望対応を行った。
- ② 意見箱の設置、委員会のポスター掲示などをおこなった。
- ③ 品川区サービス向上研究会の活動に準じ、セルフチェックを行った。
- ④ 法人全体で毎月のセルフチェックを継続、また利用者と職員に対し、聞き取り調査を実施した。

### (2) 健康管理

- ① 必要な利用者を対象に毎朝バイタルチェックを実施した。
- ② 毎月1回体重測定と血圧測定を実施した。
- ③ 内科・リハビリテーション科・歯科の嘱託医による健康相談を実施し、歯科医による摂食指導や口腔ケア訓練等を実施した。また協力病院の契約準備をした。さらに個々の機能に合った食事形態の給食を提供した。
- ④ 生活介護事業利用者全員を対象に、健康診断を年1回実施した。

### (3) 給食サービス

- ①嗜好調査を行い、また献立の希望を聴取し、献立作りに反映し、障害、摂食状況に

- 応じた二次加工を行ない、選択食も実施した。
- ②給食業者・一富士フードサービス（株）と食事提供のレベルアップに向け、月一回給食会議を実施した。
- ③適温給食に向け、温冷配膳車を運用してきた。

### 3. 会議・研修

#### (1) 会議

- ①職員会議 毎月1回実施 4事業合同で、全職員（非常勤含む）が参加した。
- ②事業所会議 (訓練センター・生活介護事業会議は毎月1回、支援センター会議は毎月2回、地域活動支援センター会議は随時開催した。)
- ③ケース会議 必要に応じて、生活支援センターと連携をとり実施した。
- ④予算会議 必要に応じて役職者で実施した。
- ⑤給食会議 每月1回実施 委託業者調理員と合同で給食委員会を開催した。
- ⑥打ち合わせ 每朝、夕全職員参加で実施した。
- ⑦役職会議 毎月2回（施設長会議の翌日）実施。情報共有、意見交換の場として実施した。

#### (2) 研修

- ①法人研修 法人の研修計画に沿って参加した。
- ②外部研修 東京都、東京都社会福祉協議会、品川区等主催等の研修に参加した。
- ③現任研修 事業所内で企画実施した。

### 4. 家族・地域社会との関わり

- ①生活介護事業にて事業説明会を年に2回開催した。
- ②生活介護事業では、必要な利用者に対して連絡帳による家庭との情報交換を実施、その他必要により個別面接を行った。
- ③運営協議会を品川区、地域関係者、障害者団体、法人の4団体で開催した。
- ④機関紙を発行し、関係機関や地域関係者に配布した。
- ⑤地域交流事業「会館まつり」を地域関係者、障害者団体と実行委員会を組織し開催した。

### 5. 行事

- ①館外活動（生活介護事業） ②会館まつり  
③施設行事として、ハロウィン、クリスマス忘年会を実施。（生活介護事業）

### 6. 防災

毎月1回、全体で防災訓練を実施した。

# 平成30年度 生活訓練事業報告

## 1. 総括

定員は6名で事業内容も本来の生活訓練の目的・機能をさらに明確化して事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等、関連機関との情報交換を密にすることで情報共有を図り、支援の連携体制の維持に努めた。また区内にある介護保険制度の高齢者在宅介護支援センターに事業の説明を行い、訓練対象者の紹介を依頼、稼動率の増加への取り組みを実施した。また平成31年度から、港特別支援学校卒業後の利用施設となるように学校へアプローチし、実習生の受け入れを開始しているが利用には結びつかなかったが、引き続き事業案内を進めていく。訓練内容としては、見学・面接等で一人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からのプログラム作りを継続し、実効的な内容を提供した。

## 2. 利用者状況

### ①利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名	月及び年間平均稼働率	
年間を通じ登録者数は、定員以上を維持したが、目標稼働率には届かなかつたが年間を通して、37%以上の稼働で、一番良かった月は、78.9%だった。	4月： 37.5%	10月： 64.4%
訓練は、個人に合わせた訓練メニューや目標に合わせた支援を提供した。日々、新規の方に利用戴けるよう定期的に関係機関に働きかけを行っている。引き続き、利用者増加に取り組んでいきたい。利用者1名が就労（復職）につながった。	5月： 50.0%	11月： 73.8%
	6月： 44.4%	12月： 78.9%
	7月： 39.7%	1月： 57.0%
	8月： 38.4%	2月： 65.8%
	9月： 59.3%	3月： 64.2%
	年間平均稼働率	
	56.1%	
平成31年3月31日現在の在籍状況： 8名	4月から9月	44.5%
	10月から3月	67.4%
男性 6名	女性 3名	全体平均年齢
平均年齢：47.0歳	平均年齢：48.3歳	47.4歳

## 3. 支援経過

- ①個別支援計画に基づき、作業療法士・理学療法士による訓練を実施した。
- ②訓練内容としては、一人ひとりのニーズを把握し、目標に沿ってパソコン課題、机上課題（プリント類）、軽作業、外出訓練、グループ訓練（軽作業、調理活動）を取り入れた。また就労移行事業所や企業見学も実施した。
- ③外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に対して改善策を提案した。
- ④生活調査を通じて、食生活・住環境・衛生管理・金銭管理等生活全般について、生活の質の改善、地域での自立を目指した。

## 4. 作業療法

作業療法士の評価、本人の希望等に基づき訓練内容の組み立てを行った。

## 5. 理学療法

作業療法がメニューの中心であるが、希望・必要がある場合には理学療法士による評価を行い、自主トレーニングメニューの作成を行った。



# 平成30年度 機能訓練事業報告

## 1. 総括

事業内容は本来の機能訓練の目的・機能をさらに明確化し、事業を継続した。引き続き医療・保健機関、障害者生活支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換を密にすることで情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また区内にある介護保険制度の在宅介護支援センターに事業の説明を行い、対象者の紹介を依頼、利用者増への取り組みを実施した。また城南特別支援学校卒業後の利用推進に向け学校へアプローチし、実習生の受入れや利用契約が進むように準備を進めた。訓練内容としては、見学・面接等で一人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からのリハビリ計画書の充実を図ると共に、その計画に沿ったプログラム作りを継続し、実効的な内容を提供した。

## 2. 利用者状況 利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名	月及び年間平均稼働率	
医療機関ではないため、リハビリが主の目的ではなく、「目的達成のためのリハビリ」を行う事業所と説明し、了承を得た方に利用戴いている。	4月： 8.3%	10月： 23.5%
	5月： 17.5%	11月： 30.2%
	6月： 19.8%	12月： 38.6%
	7月： 27.0%	1月： 40.4%
	8月： 22.5%	2月： 32.5%
	9月： 20.4%	3月： 35.0%
年間平均稼働率		26.3%
4月から9月		19.4%
10月から3月		33.1%
平成31年3月31日現在の在籍状況： 4名		
男性 3名	女性 1名	全体平均年齢
平均年齢：48.7歳	平均年齢：45歳	47.8歳

## 3. 支援経過

- ①リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ②体力維持や向上に向け、理学療法士の指導・判断による自主トレーニングプログラム（エルゴメーター・筋力トレーニング等）を作成、自宅でも訓練の継続が図れるよう指導・助言を行った。
- ③就労を目標としたパソコン課題・机上課題・軽作業（仕分け・タオルたたみ他）等に取り組むことで得手・不得手の自覚に導き、改善方法を見出すことで就労意欲の喚起を促し、企業見学も実施し、就労移行をサポートした。
- ④外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に対して改善策を提案した。

## 4. 理学療法

リハビリ計画書に基づいた理学療法士による機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に自主訓練メニューを作成した。

## 5. 作業療法

個別支援計画書に基づいた作業療法士による訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、利用者の様子を伺いながら、個別性の高いプログラムを組み立て、実践の中で、達成度や改善点の共有を行なった。



## 平成30年度 生活介護事業報告

### 1. 総括

個別支援計画に沿った支援を強化し、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援を継続した。また、作業療法士・理学療法士との連携強化を図り、グループ訓練を継続したことにより、職員の作業療法士・理学療法士への理解が更に深まり、日々の介護にも訓練意識の向上が見られた。

支援方針としては、障害者生活支援センターと連携した個別支援と、利用者の希望・意向を尊重する理念を継続した。また利用者の障害程度の重度化、高齢化への対応として、拡大した居室スペースの活用や職員配置を増員し、支援の充実を図った。

利用者サービス向上への取り組みとして、救急対応や心肺蘇生等、緊急時の対応の勉強会を年間通して実施した。また生活介護会議の中で職員が輪番でテーマを定め、グループディスカッションを行うことで職員個々のスキルアップを図り、事業全体のレベルアップに努めた。

### 2. 利用者状況

#### 利用人数・稼働率

利用者定員 50名	月及び年間平均稼動率	
年度途中に1名がご逝去、1名が介護保険制度への移行、2名が施設入所、1名が在宅支援への移行で退所。(計5名)	4月：91.5%	10月：87.8%
	5月：91.1%	11月：85.6%
	6月：88.1%	12月：81.0%
	7月：89.9%	1月：85.2%
	8月：88.1%	2月：91.2%
	9月：90.7%	3月：86.3%
年間平均稼働率		88.0%
4月から9月		89.8%
10月から3月		86.1%
男性 31名	女性 21名	全体平均年齢
平均年齢：33.6歳	平均年齢：36.8歳	34.9歳

### 3. 支援経過

- ①体温や血圧等、利用者の健康状態の把握を進め、個別によりきめ細かく配慮した。
- ②リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ③個別プログラムとして散歩、創作活動等をその日の希望により個別に実施してきた。
- ④全体プログラムとして音楽活動、カラオケ、ビデオ鑑賞等を実施してきた。また新たな生産活動のプログラムを開始した。
- ⑤感覚刺激を利用したプログラム（手浴・足浴、音楽療法、リラクゼーション、読み聞かせ、スヌーズレン等）に重点をおき、実施した。

#### 4. 理学療法(PT)

リハビリ計画書に基づいた理学療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、生活支援員が理学療法士の指導の下、日常のマッサージ等を実施した。

また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

- ・訓練実施回数 年 48 回

#### 5. 作業療法 (OT)

リハビリ計画書に基づいた作業療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、手指の巧緻性や上肢の運動機能、認知機能等向上に向けた訓練を実施した。

- ・訓練実施回数 年 36 回

#### 6. 音楽療法

講師を招いてミュージックセラピーを実施、音楽に合わせた身体運動により精神的緊張の軽減と情緒の安定を図った。

- ・実施回数 年 24 回

#### 7. 摂食指導及び給食サービス

必要な利用者へ、家族、摂食指導医、栄養士、給食委託業者、看護師、生活支援員が連携を図り、利用者個々に適した食形態の食事提供及び食事介助方法の検討を行い、隨時、実施した。今年度、テーブル型冷凍冷蔵庫とテーブル型冷凍庫を購入し、給食サービスの質の向上を図った。

- ・実施回数 年 12 回

#### 8. 入浴サービス

家庭で入浴が困難な利用者等の入浴支援を行った。

- ・利用人数 1名（週 1回利用）

#### 9. 送迎サービス

必要な利用者へ、車両による送迎サービスを実施した。またマイクロバスを購入し、入れ替えた。

- ・利用人数 37名／52名 全登録者数中（全員がほぼ往復利用）  
(平成 31 年 3 月 31 日現在)

#### 10. 虐待防止やサービス向上への取り組み

毎月 1 回、虐待防止委員会やサービス向上委員会を実施した。また今年度は「利用者と職員に対する聞き取り調査」と「品川区施設サービス向上委員会のセルフチェック」を実施した。その中で、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

# 平成30年度 品川区障害者生活支援センター事業報告

## 1. 総括

平成30年度は、相談員6名で主に身体障害者・知的障害者の相談支援と共に、高次脳機能障害相談事業を実施した。

今年度の重点目標として位置づけた「品川区における障害者支援拠点化に向けて事業を遂行」するため、検討会や自立支援協議会部会へも積極的に参加した。

相談の傾向として、身体障害者の相談支援が居宅サービスの調整を中心である事に対して、知的障害者の相談支援では日中の生活の場や日常生活のトラブルなどの相談が多い。

また、リスクの高い家庭（老障介護や介護者の疾病等）への対応はその都度関係機関との連携を調整したが、事前の状況把握と対応が課題として上がっている。その対応策として地域生活拠点マネージャーを配置し、緊急時の24h体制を整えながら、ハイリスク家庭の状態把握や関係調整を進めるとともに、事業所との連絡調整体制を強化した。

相談支援センターの事業が認知されてきている為か、区内通所施設からの相談も増加している。今後も、他法人の同センターと共に「拠点支援センター」の役割や調整についての責務を継続していく。

他に、高次脳機能障害者相談に週1回、専任作業療法士(OT)を配置し、地域のニーズを集約する役割を担った。相談内容としては、一般就労への復帰や安定した日中生活の場の確保などの内容が多い。作業療法士による高次脳機能評価などのアセスメントを踏まえ、関係機関への繋ぎや本人・家族が障害と向き合える環境整備を進めたが、区内外の関係事業所との連携が必要となる為、実施経過がそのまま関係機関との連携件数の増加に繋がった。

一方では自立支援協議会、同会専門部会に参加し、ケースを通して障害者が在宅生活をする上で必要とするサービスを検討・提案している。

ピアカウンセリングでは、八潮地区対象者のニーズに応えるため、出張相談を実施している。今後も区内のニーズに的確に対応するよう努める。

## 2. 実施事業

### (1) 障害者対象の総合相談、障害者福祉サービスの利用援助について

- ① 各種の福祉情報を提供した。
- ② 各種福祉サービスを利用する際の援助を行った。
- ③ サービス利用計画書を作成、サービス調整、モニタリングを行った。
- ④ 障害区分の認定調査を実施した。
  - (ア) サービス担当者会議等を開催した。
  - (イ) サービス調整会議に参加した。

- (ウ) 障害者の緊急時に対応した。
  - (エ) 区内障害者関係事業所との連携を図った。
  - (オ) 品川区障害者福祉課と連携を強化、利用者の生活を総合的に支援した。
- (2) 社会資源を活用するための支援
- ① 各種施設・関係機関等の紹介を行った。
  - ② 障害者が外出する際の支援を行った。
  - ③ 障害者に対しての住宅の紹介を行った。
  - ④ 外出や旅行、買い物などの生活情報を提供した。
  - ⑤ 障害者の自主グループ等の情報を提供した。
- (3) 社会で生活するための能力を高める支援を行った。
- (4) 障害者自身によるピアカウンセリングを実施し、パンフレットを作成、区報や法人報を利用したPR活動を行った。
- (5) 訪問リハビリ相談
- 在宅の重度の身体障害者を対象に、理学療法士等の訪問による助言指導を行った。また、車椅子・補装具・リハビリテーションに関して理学療法士による相談日を設け、助言指導を行ってきた。
- (6) 関係機関とのネットワーク構築を目指し、行政・各障害者施設・各ヘルパー事業所・就労支援センター等と連携を図った。
- (7) 自立支援協議会へ参加した。
- (8) 入浴サービス
- 家庭での入浴が困難な重度の障害者の方々へ巡回入浴車を派遣した。
- (9) 高次脳機能障害者相談
- 高次脳機能障害者の相談支援を開始した。相談内容は、一般就労への復帰や安定した日中生活の場の確保などが多い。作業療法士による高次脳機能評価などのアセスメントを踏まえ、関係機関への繋ぎや本人・家族が障害と向き合える環境整備を行う。相談を実施する中で、対応事業所の不足や家族を含めた困窮の実態が明らかになり、大きな課題が浮き彫りとなった。特定疾病による介護保険の第二号被保険者の場合、介護保険事業所との連携が必要となる。
- (10) 「地域活動支援センター」と連携し、利用促進の発信や情報提供を通じて在宅障害者サービスを進めた。

### 3. 受講した研修等

- ・ 東京都障害程度区分認定調査員研修（東京都福祉保健局）
- ・ 東京都相談支援従事者初任者研修（東京都福祉保健局）
- ・ 強度行動障害支援者養成研修（品川介護専門学校）
- ・ 社会福祉従事者人権研修（東京都福祉保健局） 他

#### 4. 実習生の受け入れ

ルーテル学院大学社会福祉学科、上智大学社会福祉学科、東洋大学ライフデザイン科 他

#### 5. 資料：相談支援事業内容集計（件）

① 相談者内訳 (数字は延件数)

	本人	家族	関係機関	病院	その他	合計
H30年	2060	1008	3933	397	11	7,409
H29年	1,508	920	4,113	320	56	6,917
H28年	1,358	975	3,812	231	62	6,438

② 調査件数 (数字は延件数)

	認定区分調査 (新規・更新・変更)	介護給付・訓練等給付 (新規・更新・変更)	計画相談 (新規・更新・モニタ)	合計
H30年	68	227	949	1,244
H29年	107	193	578	878
H28年	19	123	933	1,075

#### 6. 相談内容内訳

(数字は延件数)

	H30	H29	H28		H30	H29	H28
福祉サービス利用	6,466	5,755	5,508	社会参加・余暇活動	408	156	15
障害や症状の理解	904	485	559	権利擁護	58	17	23
健康・医療	1,816	1,334	1,025	制度活用・説明	409	398	366
不安解消・情緒安定	315	135	205	住宅改修	7	12	0
保育・教育	13	3	48	補装具関係	72	77	73
家族・人間関係	937	543	440	日常生活用具	52	33	25
家計・経済	215	72	101	ピアカウンセリング	6	8	6
生活技術	223	141	73	その他	1,010	915	723
就労	797	518	303	合計	13,708	10,594	9,493

#### 7. 対応

(数字は延件数)

	情報提供	指導助言	サービス設定	サービス再調整	訪問設定	他機関調整	補装具	日常生活用具	その他	合計
H30年	5,956	303	185	1,249	929	350	51	31	465	9,519
H29年	5,906	191	230	455	555	178	77	25	563	7,370
H28年	3,597	327	124	900	497	417	42	23	609	6,536



# 平成 30 年度 品川区障害者地域活動支援センター事業報告

## 1. 総括

平成 30 年度は、施設長 1 名（兼務）、支援員 3 名で事業を行った。地域活動支援センターとして、区内在宅障害者を対象とした個別ニーズに対応した各種相談を受ける他、日常生活の充実、自立に向けた援助としての事業や個別指導を実施している。また、社会参加や生活の質の向上を図るため、レクリエーションや余暇支援事業を実施した。聴覚障害者への手話通訳者派遣の充実、同養成講座を継続開催した。当事者やボランティア、講習会参加者にアンケートを実施し、当事者の望む講座の実施や必要な支援に繋がるよう情報収集に力を入れた。

## 2. 事業状況

### （1）相談・指導・訓練

- ①一般相談：窓口や電話により各種相談に応じてきた。個別のニーズに合わせ、事業の紹介を行い、必要に応じ障害者生活支援センターと連携をはかった。ボランティア活動希望等については各種事業やボランティア団体等を紹介し、ニーズとサービスを結び付けた。
- ②言葉のリハビリ教室：脳血管障害による失語症を主対象に言語療法士の指導のもと言語訓練を実施した。この教室メンバーを中心に、自主グループとしても活動しており、その側面的な支援を行った。

### （2）社会参加プログラム

地域で自立した生活を送れるよう、生活基盤作りのためのプログラムを組み、仲間との交流や趣味を持つことで生活の質の向上に向け援助した。

- ①創作（工作・切り絵）教室②料理教室③音楽教室④健康体操教室
- ⑤ダンス教室⑥高次脳機能障害者・知的障害者の生活講座

### （3）障害者パソコン指導

障害者の情報通信技術（IT）の活用のニーズに応えるため、障害者パソコンテーマ別教室と相談日を設定、実施した。

### （4）手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚障害者からの申請により、手話通訳者・要約筆記者の派遣を行った。技術向上のため、登録手話通訳者・要約筆記者への現任研修を実施した。

### （5）ボランティア育成

障害者の完全参加と平等という障害者福祉の理念が区内に深く定着するためのボランティア講習会を実施。ボランティア団体との連携をとりつつボランティア育成を行った。

講座・講習会：手話講習会、点字講習会、朗読講習会等

## (6) 啓発事業

福祉啓発に繋がるよう、利用者へのアンケートを実施。次年度以降、必要とされる事業の開発に向け、引き続き情報収集に力を入れていく。

## (7) 各種貸し出し事業

①訓練室等の貸し出し:障害者団体およびボランティア団体の活動を援助のため、また地域住民に対し訓練室等の提供や事務機器等の提供を行った。

②区内の障害者に対して車椅子の貸し出しを行った。

## (8) 交流室の運営

事業に参加した方が気軽に立ち寄れるスペースとして交流室を活用、一部事業に利用し、季節に応じた行事等を企画、引き続き親しまれるスペースとして、また情報を得られるような空間となるよう提供した。

事業名	H30	H29	H28	事業名	H30	H29	H28
パソコン教室 教室・相談・テーマ別	103	142	138	創作教室 手芸・編み物・工作 切り絵・絵画、和紙・折り紙	90	484	516
ダンス教室 (知的障害)	79	77	100	生活講座 知的	21	37	54
健 康 体 操 教 室 (肢体不自由)	195	180	207	生活講座 高次脳機能障害	39	45	35
料理教室(知的)	43	32	40	聞こえにくい方の コミュニケーション講座	22	28	21
料理教室(身体)	27	35	39	点字講習会	108	162	142
PT訓練	/	/	/	手話講習会(全5クラス) 入門・基礎・通訳Ⅰ	2,004	1,881	1,865
言葉のリハビリ教室	256	257	279	朗読講習会	269	191	74
音楽教室(歌・合唱)	102	119	124	中途失聴・難聴者 サポートー養成講座	0	43	0
音楽教室(音楽療法)	50	66	64	造形ワークショップ	0	12	67
高次脳機能障害者 サポートー養成	43	36	48		/	/	/

交流室	1,297	1,104	908	手話通訳者派遣事業	706	919	829
合同交流会	96	104	70	要約筆記者派遣事業 (区/広域・派遣 C)	67	35	14

数字は延人数 斜線は事業開催なし

## 平成30年度 八潮中央保育園事業報告

### 1. 総括

在籍人数は年間を通して定員を満たした状態であった。健康面では1月から3月上旬にかけてインフルエンザA型が流行した。(園児35名、職員9名)

5月に4歳児2名が午睡中に園の塀を超えて自宅に帰っていたことがあり、事故報告書を提出している。子どもの目に触れにくいように塀を網で囲み補整している。また、子どもから目を離す時間を作らないような環境設定、職員配置等について職員会議で周知した。

### 2. 利用者状況

平成30年度年齢別利用状況 (平成31年3月31日現在 単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	108	180	180	240	240	240	1188
月平均在籍数	9	15	15	20	20	20	99

稼動率 (%)

年 度	30年度	29年度	28年度
稼動率	110	108.8	109.5

延長夜間保育利用状況 (人)

年 度	30年度	29年度	28年度
月平均延人数	136	159	178

延長夜間保育における時間別年間利用状況 (人)

平成30年度	～19：30	～20：30
平 均	5.6人	2.4人

年末保育利用状況 (人)

年 度	30年度	29年度	28年度
12／29	3	5	3

※例年地域の利用が無い為、在園児のみを対象とした。

### 3. 保育経過

#### (1) 保育全般

保育支援システムを導入し保育計画、日誌等の書式の見直しを行い、情報の集約や管理、業務の効率化につながった。

#### (2) 日課

乳児は、午前中に散歩や散策等の戸外活動を取り入れ、存分に体を動かしながら自然に触れる機会を多く取り入れた。

幼児クラスは異年齢の交流や行事の取組みを含めた様々な活動を取り入れながら、可能な限り散歩や園庭遊び等で身体を動かす時間を作るよう心掛けた。

### (3) 行事

季節毎の行事について、各年齢に合わせた説明や取組みを行うことで、子ども達が行事の由来や意味を理解できるようにした。

### (4) 健康管理

1月上旬から3月上旬にインフルエンザA型が流行した為、保健所に報告している。また、同時期に溶連菌が流行した。

感染症が流行し始めた段階で、保護者には適宜、情報提供している。

ケガによる通院件数は15件であり、室内や戸外での転倒による上唇小帯の断裂や誤って目に物がぶつかり傷や赤みからの眼科通院、その他、打撲や擦過傷等による通院が主であった。

### (5) 給食

和食を中心としたメニューを基本とし、様々な味を経験する機会を作った。園の畑やプランターで栽培したさつま芋やいちご、ミニトマト、パプリカ等の野菜を調理して食べたり、魚の解体を通して食の大切さを伝えた。食物アレルギー児に対しては、主治医の診断書をもとに除去食を提供している。

### (6) 地域交流

5歳児は八潮内の保育園、幼稚園との交流や八潮学園での様々な体験の機会を通して地域との交流を行った。その他、品川区立品川児童学園との交流や八潮在宅サービスセンターとの世代間交流を継続した。

### (7) 一時保育

幼稚園の夏、冬の長期休み時に、4歳児の利用申し込みがあった。

その他、乳児クラスの申し込みがあったが、受け入れ態勢が整わずお断りした。

## 4. 会議・研修

品川区私立保育園連合会他、キャリアアップ研修、その他様々な団体主催の研修に職員を派遣した。また、内部研修として、講師を要請し、乳幼児に対する運動遊びについての研修を実施した。

会議については月2回の職員会議で意見交換を行い、共通認識を促した。その他、全体職員会議を年3回実施し、次年度の計画等を全職員で検討する場とした。

また、サービス向上委員を中心に「乳幼児のふれあい遊び」「ヒヤリハット」をテーマに一年間、研修や話し合いを行い、保育園での安全意識の醸成や日々の保育に活かせるような取り組みを行った。

## 5. 保護者との関わり

全体保護者会やクラス保護者会、個人面談を通して保護者と情報を共有することで連携を図った。また、保育参観、保育参加を通して、園や子どもの様子を見て頂くことで、園の運営理解や良好なコミュニケーションを図る機会となった。

## 6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。9月に引取り訓練、12月に津波想定訓練、1月に一時避難場所への避難訓練を実施した。また、11月に安全対策として職員のみの不審者対応訓練を実施した。

## 7. 環境整備、備品購入

次年度に向けてSIDS予防のセンサーマット、1歳児保育室のパーテーションを購入した。更なる安全管理に努める。

# 平成30年度 かえで荘事業報告

## 1. 総括

今年度は、目標稼働率を上回った月は最初の4か月のみで、8月以降はなみがあり安定した数字を維持することが難しかった。様々な要因が考えられるが、なかでも利用者の健康状態の変化が著しい一年であった。昨年と入院者数を比較すると延べ人員、延べ日数ともにかなり増えた。延べ人数で19人増、延べ日数で365日増と稼働率に大きく影響したといえる。特に、9月および1月～3月期においては、平均15名以上の入院者がおり、また、新入所を調整しても退所者が上回る結果となった。

感染症については、インフルエンザの罹患者が他の施設の蔓延状況からすると、5名（職員、SS利用者含む）にとどまり、拡大せずに短期間で終息できたことが良かった。しかし、3月末に本部施設内で発生した集団感染（感染性胃腸炎）では、原因や感染経路が特定できず、利用者だけでなく職員も複数名症状が現れ終息までに時間を要した。

職員関係では、生活相談員の体調不良により相談員業務の調整を要し、8月からは完全に1名体制となった。利用者支援において、全体周知に統制がとれず、稼働率低下と関連性がないとは言い難い。また、看護師の配置にも苦慮した一年であった。加えて介護士の人員不足もあり、人員の調整不足が様々な部分に影響するため、それに備えられるような体制づくりをしていく必要性を認識した。

## 2. 利用状況

### （1）利用者状況

＜要介護度＞ (平成31年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	5	5	28	25	17	80

・平均要介護度 3.5 (平成29年度 3.5) (※一時入所含む)

利用者のうち要介護度3・4・5の利用者が87.5%を占める。

＜年齢＞ (平成31年3月31日現在 単位：人)

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	1	2	0	3	2	5	0	13
女	0	2	1	13	20	29	2	67
計	1	4	1	16	22	34	2	80

・平均年齢 88歳 (平成29年度 87.2歳)

・最低年齢 63歳 最高年齢 102歳

### （2）稼働率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
利用率 (%)	94.0	96.1	94.6

### 3. 援助計画

#### (1) 日課・週課

利用者の重度化、職員不足により十分な個別外出などの実施が難しかった。

#### (2) 機能回復訓練

機能訓練指導員として作業療法士を配置し、介護士・看護師との協議にて、個別機能訓練計画を作成した。寝たきり状態の利用者の QOL の向上、苦痛緩和、褥瘡や拘縮の予防・改善を目的とし、平成 29 年度よりポジショニングについての取り組みを強化。専門職として継続的な実施を目指し、常勤介護士を対象にポジショニング技術向上を図るための研修を 8 月より本格的に開始した。

＜機能回復訓練実施状況＞ (平成 31 年 3 月 31 日現在 単位：延人数)

平成・年度	30 年度	29 年度	28 年度
内 容	歩行訓練	138	257
	立位バランス	58	52
	極超短波療法	0	0
	上半身機能訓練	999	1,145
	下半身機能訓練	3	95
	生活リハビリ	17,904	18,257
合 計		19,102	19,808
		20,013	

#### (3) 余暇活動

花布巾サークル・書道サークル・園芸サークル・体操・認知症高齢者向けの音楽や読み聞かせ、傾聴などボランティアの協力のもと実施しているが、ボランティアの来所者数が減り、サークル実施の回数もそれと連動して減少傾向。各フロアでのレク活動（カラオケ、創作等）・料理サークル活動は介護士が中心となり行った。近隣保育園との交流は利用者に大変喜ばれ毎回好評であった。

#### (4) 行事

##### ① 月例行事

近隣のショッピングセンターへの外出を実施した。遠出などの外出はできなかつたが、利用者の要望による散策・出前食等を行った。

##### ② 年間行事

おおむね年間を通じて、季節ごとの行事を楽しんでいただいた。今年度リニューアルした法人行事のしなふく紅葉フェスタのほか、利用者の希望・身体状況に応じ、個々のニーズに合わせ、買い物や近隣への散歩もおこなったが、遠方に出かける機会を確保できなかったので次年度は実施したい。

#### (5) 利用者の健康管理

入院期間は 2 週間程度とあまり大きく変わっていないが、今年度は入院者が増えたことで、入院延べ日数もかなり増えている。入院理由も、肺炎などの高齢者に多い疾患だけでなく、多岐にわたっていることから、今後も早期発見、早期対応に努め、日々の健康管理とケアの持続的観察の強化を図っていきたい。

### <入院状況>

年度	入院延べ人員(人)	入院延べ日数(日)	平均入院日数(日)
30年度	145	2,352	16.22
29年度	126	1,987	15.76
28年度	129	1,945	15.07

### (6) 食事

管理栄養士・看護師・介護士等による会議を開催し、栄養ケアマネジメントと利用者の栄養管理に努めた。また、利用者個々の心身状態に応じた食事を提供するために、希望立調査や選択食の提供を行った。日々の食事については、委託業者を含め給食会議で食事環境の改善を検討し、安全な食事提供を推進するなど、給食委託業者との連携も良好であった。近年、嚥下機能低下の方が増え、正しい食事介助方法でより安全に食事提供ができるよう周知の必要性を感じた。また、利用者の特性に合わせた介助の研修も必要であると感じている。

### <食事形態の状況>

(平成30年3月31日現在、入院者除く実人員)

年度	ペースト食	きざみ食	あらきざみ食	経管栄養	一般食
30年度末	11	22	31	5	7
29年度末	14	26	22	7	8
28年度末	12	24	26	7	12

## 4. 会議・研修

### (1) 研修

毎月1回、施設内研修の一環として現任研修を開催し、介護技術の向上や知識の習得等を行った。外部研修では、特に東京都認知症研修への参加を促し、認知症ケアについて学ぶ機会を多く設けた。また、学習の機会だけではなく情報共有のための周知方法を工夫し、サービスの質の向上につなげていきたい。

### (2) 会議

職員会議・医務連絡会など定期的に実施したが、介護士の参加率が低いため、2月より開催時間を変更し、介護士が参加しやすい時間に設定した。そのことにより情報の共有化が図れるようになり、様々な意見がでて活発化した。

フロア一會議は概ね月一回の開催が定着し、業務改善やフロアでの取決めなどが周知されやすくなった。

### (3) 委員会活動

サービスの向上と職員の資質向上を目的に、サービス向上委員会・事故防止委員会・身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会・感染症対策委員会・褥瘡予防委員会・給食委員会・医療的ケアの安全対策委員会など各委員会活動を実施した。次年度は更に機能強化していくために、開催日を固定しシステム化していきたい。

## 5. 家族・地域との関わり

### (1) 家族との連携

家族との協力関係の推進と事業に関する情報提供等のために、家族会の開催、かえで新聞の発行、初の試みとして利用者担当介護士から家族への報告を年2回文書で送付した。家族来荘時、また電話による連絡・相談を心がけ連携体制を強化した。

### ＜面会・外出状況＞

平成・年度	30年度	29年度	28年度
面会者件数	2, 044件	2, 500件	2, 229件
面会延べ人員	2, 933人	2, 644人	2, 646人

### (2) ボランティア

ボランティア委員会が中心となり、地域福祉課と連絡・調整をし、地域・学生ボの受入れを行った。サークル活動のボランティアが減少傾向。

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	1	20	その他	20	267
理美容	0	0	平成30年度計	27	334
園芸	4	45	平成29年度計	34	351
行事	2	2	平成28年度計	51	349

### (3) 実習生

福祉事業を支えるマンパワー育成に協力するため、実習生を積極的に受け入れる体制をとっていた。しかし、今年度も実人員14人（昨年度16人）、延べ日数は50日（昨年度165日）と更に減り、介護系学校からの実習依頼は1校のみで年々減少している。その他、介護系ではないが実習が必須科目となっている大学からの教職関連の実習や人事院からの実習など目的に応じた受け入れをおこなった。

### (4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業に参加した。また、地域の保育園等との交流にも力を入れ、受け入れ時の工夫を図り園児や先生の好評を得た。今後も八潮北保育園・東大井保育園とは定期的な交流を継続し、共生社会の一端を担っていきたい。

## 6. 短期入所生活介護事業

### (1) 実施概要

新規利用者は、生活相談員が自宅訪問面接を行い、スムーズな受け入れ体制を柔軟に行つた。今年度も緊急ケースなどの受け入れ体制を柔軟に行つた。感染の影響はあったものの、空床を活用し利用率を高めた結果目標稼働率が達成された。

### (2) 利用実績

平成・年度	30年度	29年度	28年度
延べ日数	2, 210日	1, 908日	2, 004日

### (3) 稼働率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
利用率 (%)	100. 9%	87. 1%	91. 5%

## 7. 防災

防災計画に基づき、センター内各施設が持ち回りで指揮者となり、毎月1回の総合防災訓練と年2回のBCP（災害時事業継続計画）訓練を実施した。9月に八潮地区総合防災訓練に参加。八潮学園の学生と車椅子利用者が避難訓練に参加した。

## 8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	機械浴槽、乾燥機、洗濯機、加湿器の修繕・改修
備品購入関係（介護関係）	車椅子、洗濯機、リクライニング椅子

# 平成30年度 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告

## 1. 総括

職員関係においては、年度内に看護師1名が退職し、介護士・看護師各1名を採用した。事業所で想定する職員配置数には満たなかったが、利用者支援の中心となる介護士については、チーム力を高めるため（ケアの質の向上と職員間の団結力）派遣介護士に頼らず、直接雇用の職員のみの配置とした。日々の業務に追われるなかで人為的なミスによる事故が発生し、利用者に不利益を生じさせてしまうこともあったが、事故については、しっかりと検証を行い再発防止に努め、そこから次のケアへ繋げることが出来るように取り組んだ。職員が固定することで、チーム全体で利用者本位のケアを行うことを意識し実践した。目標稼働率は収支状況も考慮し96%に設定したが、94.1%と約2%及ばなかった。

看取り介護については、前年度に引き続き利用者・家族の希望を受けて、管理医の協力の下、年間7名の利用者に対応した。「最後の最期までその人がその人で在り続けること」を念頭にケアを行い、看取り介護を行うことが職員の利用者対応力の成長に繋がっている。希望に沿い看取り介護を提供するなか、その時期の判断が難しいこともあります、看取り介護に対するインフォームド・コンセントが間に合わず、施設内での急死も増えている。

新たな取り組みとして、夜間入浴を実施した。就寝前に入浴したいと言う声に応えることから始めたが、夜間入浴の導入により日中の過ごし方を見直す機会を持て、結果的に個別支援の充実へ繋げることが出来た。

## 2. 利用状況

### (1) 利用者状況

<要介護度>								(平成31年3月31日現在)		単位：人
要介護度	1	2	3	4	5	申請中	合計			
利用者数	2	5	17	31	23	0	78			

・平均要介護度 3.7 (平成28年度 3.6)

利用者のうち要介護度3以上の利用者が87.3%を占める。

<年齢>								(平成31年3月31日現在)		単位：人
	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計		
男	0	0	4	2	5	0	0	11		
女	0	1	0	10	16	38	2	67		
計	0	1	4	12	21	38	2	78		

・平均年齢 89.4歳 (平成29年度 89.4歳)

・最低年齢 74歳 最高年齢 103歳

### (2) 稼働率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
稼働率 (%)	94.1	92.6	93.2

### 3. 援助計画

#### (1) 日課・週課

利用者一人ひとりについて、心身の状態変化に応じてきめ細かく担当者会議を行い、多職種間での情報共有と意見交換を重ね、ケアプランの変更やサービス内容の確認を行なった。また、一斉一律のケアから個別ケアへの取り組みの推進、居室担当者の役割の強化、モニタリングの適切な実施を行い、ご本人の望まれる暮らしに近づける実践につなげていった。

#### (2) 機能回復訓練

日常生活の中で、利用者自身の持てる力を發揮し、身体機能の維持向上を図るために自然と身体を動かすことを生活リハビリと位置づけて実施した。マッサージ師、理学療法士（非常勤）によるリハビリ計画に基づき個別の訓練を中心に実施し、一人ひとりの機能維持、向上に努めた。

<機能回復訓練実施状況>

(単位：人)

平成・年度	30年度	29年度	28年度
内 容	歩行訓練	270	381
	立位訓練	519	724
	端座位訓練	173	212
	温熱療法（極超短波・ホットパック）	165	228
	四肢体幹機能訓練	1, 293	1, 515
	生活リハビリ	38, 058	37, 665
	集団リハビリ	72	73
計	40, 550	40, 798	35, 930

#### (3) 余暇活動

園芸、音楽、折り紙等のサークル活動については、ボランティアの協力を得て、できるだけ利用者個人にあった活動を行なった。特に園芸については、年に2回の評価会を実施し、園芸療法研修会との連携を強めている。利用者の願いや要望に添い、利用者自身が普段の日常生活の中に喜びや満足感を感じられる時間が創出できる支援を進めてきた。

#### (4) 行事

##### ① 月例行事

お花見、敬老会、バイキング食事会など季節感のある行事を企画し、食事メニューにも工夫を重ね、利用者に喜んでもらえるよう、またご家族にも楽しんで頂ける様、各階单位で企画・実施し、施設職員との距離感を縮める工夫をした。

##### ② 年間行事

毎年恒例の中延複合施設の全体行事『くつろぎ祭り』のほか、年末の餅つき大会などを実施した。また、法人本部の行事（オレンジカフェ・五月祭り・紅葉祭り）にも参加した。

## (5) 利用者の健康管理

入院者の延べ人数、延べ日数共に減少している。退所者数は 34 名であった。  
管理医師（内科）や嘱託医師、協力病院に変更は無かった。

1 月にはインフルエンザに罹患する利用者が多く、一時的（1 週間程）に面会を制限させて頂いた。

<入院状況 単位：人・日>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
30 年度	77	1, 152	15.0
29 年度	96	1, 465	15.3
28 年度	127	1, 838	14.4

## (6) 食事

委託業者であるベストフードサービスと連携し食事提供を行った。味や盛り付けも安定しており、利用者には概ね好評だったが、食材の調達については地元業者の活用を前提としているため、コスト面で厳しい状況となっている。その他、栄養ケア計画に基づき、医師、看護師、介護士等と連携し、その方にあった食事を提供してきた。また、各種の栄養補助食品等の使用により、可能な限りの経口摂取を図ってきた。

<食事形態の状況>

(実人数)

	ペースト食	極きざみ食	きざみ食	粗きざみ食	常食	経管栄養
30 年度末	5	11	24	27	7	4
29 年度末	5	10	25	28	7	4
28 年度末	5	16	16	23	13	6

## 4. 会議・研修

### (1) 研修

ケアの質の向上、職員のスキルアップのために、品川福祉カレッジや東京都主催の権利擁護研修等、各種の研修に積極的に参加した。

### (2) 会議

サービス担当者会議・フロア会議等を必要に応じて、随時および定期的に開催した。特にサービス担当者会議は、短時間でも細かく丁寧に行ない、随時ケアを見直した。また、原則リーダー全員参加による「役職者等連絡会」を月に2回程度開催し、様々な情報共有と意見交換、ケア方針等の確認を行った。

### (3) 委員会活動

定例会議と連動して指針に基づき、事故防止、感染症予防、床ずれ予防、看取り、虐待防止、サービス向上等の各委員会を随時開催した。

## 5. 家族・地域との関わり

### (1) 家族との連携

2 回の事業説明会を開催。事業説明会では職員のケアに対する取り組みの発表も行っている。また、各フロア毎の懇談会も実施している。

<面会状況>

平成・年度	30年度	29年度	28年度
面会延べ人員	6, 132人	7, 306人	5, 803人

(2) ボランティア

介護士の補助的な業務や行事関係だけでなく、館内の樹木の水やりや清掃など、施設内の状況を見て、自主的に関わっていただいている。洗濯物畳みについては担当職員と特に良好な関係を保ち、地域の方への施設理解につながっている。

<ボランティア活動状況>

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	4	123	行事	55	56
余暇活動	6	24	その他	0	0
介護士業務補助	33	465	平成30年度計	112	803
傾聴	8	54	平成29年度計	71	832
園芸	6	81	平成28年度計	81	974

(3) 実習生

実人員43人（昨年度35人）、延べ日数は400日（昨年度290日）の実習生（介護福祉士・看護師等）を受け入れた。実習終了後に就職を希望する学生もいた。

(4) 地域社会との交流の推進

地域で開催される例大祭や盆踊り大会への参加と協力、都営住宅や町会との合同防災訓練等を企画・実施していった。

## 6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

①定員10名②居室2階（2人部屋1室・個室2室）3階（2人部屋1室・個室4室）

(2) 稼動実績

平成・年度	30年度	29年度	28年度
延べ日数	3, 431日	3, 268日	3, 159日

(3) 稼働率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
稼働率 (%)	93.9	89.6	87.0

申し込み数は平均25・6件だが、急な入院等によるキャンセルの影響が大きかった。在宅介護支援センターを併設しているため、緊急利用が多く稼働率は微増した。

## 7. 防災

防災計画に基づき、毎月1回の防災訓練及び震災想定の訓練を実施し、内、年2回は合築の都営住宅、町内会との合同訓練を行った。

## 8. 施設管理・環境整備・備品購入等

建物設備、備品類の経年劣化が目立ち、修繕や購入を進めている。

修繕・改修関係	浴室改修、冷房設備
環境整備関係	居室照明器具
備品購入関係	車いす、食堂用椅子、エアーマット

# 平成30年度 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告

## 1. 総括

今年度も継続して利用者一人ひとりの安全や安心を優先する生活の支援を目指した。また、季節にちなんだお茶会やお祭り等の催しを月1回程度行い、利用者自身が生活の中に楽しみを感じられる取り組みを実施した。しかしながら、利用者より職員の言動に対し不快な思いをしたとの訴えがあり、法人、区へ報告している。その為、区の調査が入り虐待の認定を受けた。また、区の実地検査が入り、身体拘束についての指摘を受け、改善に向けて取り組みを行った。

感染症、食中毒等については、2月にインフルエンザが発症し、管理医師による予防薬の処方や、環境整備、消毒等を強化した結果、2フロアの感染で終息した。

職員関係においては、必要な職員数不足が生じ、長期休養、急な退職もあり、派遣や非常勤、他施設からの応援で賄うも補充に時間がかかり、職員の夜勤や超過勤務などの負担が増加した。

稼働率については、30年4月より相談員が変更となつたが、相談員業務が未経験であり、さらに12月より体調を崩し長期休みに入ったことで、急遽12月に入ってから新たな相談員を配置した。その為、1年通して引継ぎを行いながらの業務であった為、入退所調整に時間を要した。1月～2月はインフルエンザ蔓延に伴い入所調整を中止した事も、稼働率低下に影響している。また、利用者の入所後すぐの入退院や長期入院、入院の末の退所が目立った。

ショートステイについては、理美容の日程を家族やケアマネージャーに知らせることで、日程に合わせた利用もあり好評であった。それ以外に1人暮らしや家族が遠方の方については、介護タクシーによる利用者単独での入所や相談員が付き添いで送迎車へ同乗して受け入れするケースも増えている。しかし、年度途中職員体制が整わず、下半期に入退所制限をかけた事で稼働率が低迷した。また、リピーターの特養入所も影響している。

## 2. 利用状況

### (1) 利用者状況

<要介護度>		(平成31年3月31日現在 単位:人)					
要介護度	1	2	3	4	5	合計	
利用者数	1	5	29	22	19	76	

・平均要介護度 3.7 (平成29年度 3.7) (※一時利用含む)

・全利用者のうち要介護度3以上の利用者が92.2%を占める。

<年齢>		(平成31年3月31日現在 単位:人)						
性別年齢	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	0	1	1	3	5	9	0	19
女	1	2	0	4	11	36	3	57
計	1	3	1	7	16	45	3	76

・平均年齢 90.3歳 (平成29年度 88.8歳) ・最低年齢 52歳 ・最高年齢 105歳

## (2) 積動率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
稼動率 (%)	93.1	94.8	93.7

## 3. 援助計画

### (1) 日課・週課

利用者本位の姿勢を重視し、利用者自身が生活の中で力を發揮できるよう支援した。反面、食事や日常の基本的な介助が増加し、食事時間を利用者本位の時間に合わせて実施することが難しくなる場面や、職員の超過勤務が発生した。

### (2) 機能回復訓練

- ① 活動性の高い方には、座位での四肢の屈伸運動(集団での体操を含む)、手すりや平行棒を使用した立ち上がり動作訓練を中心に、平行棒内や廊下での歩行訓練、片脚立位訓練を状態に応じて実施した。
- ② ベッドで過ごす時間の長い方は四肢・体幹の筋力訓練と、他動運動・ストレッチ訓練を行った。また、筋緊張を緩和し、拘縮進行と褥瘡予防の為に臥床姿勢や座位姿勢の調整(ポジショニング)を実施した。
- ③ 動作の介助(特に起居・移乗動作)では介護士と機能訓練指導員が協同で動作の評価を行った。立ち上がる前に足を引く、体幹を前傾させてから立ち上がるといった、「身体機能を維持するための介助」に取り組み続けた。繰り返し行うことで動作の再獲得や筋力の維持に効果が認められた。また、これまでできていた動作が難しくなった方へは本人と介助者の双方に負担の少ない介助方法を検討し、安全に行える方法を検討、実施している。
- ④ ショートステイでのリハビリの強化を図り、食前の体操を今年度も引き続き実施した。計141回実施、延べ参加人数970人。初参加の時は慣れない様子だった方が体操を楽しみにしている様子も見られ、利用者同士の交流の場にもなっていた。

### <機能回復訓練実施状況>

(延人数)

平成・年度	30年度	29年度	28年度
内容	歩行訓練	44	86
	立位バランス訓練	101	92
	上肢機能訓練	1,082	758
	下肢機能訓練	1,795	1,541
	体幹機能訓練	972	579
計	3,994	3,056	2,912

### (3) 余暇活動

利用者の声を聴き、桜の時期のほか随時団地内の散歩や買い物などを支援した。またショートステイではドライブ、折り紙、カラオケなど利用者の希望に応じた企画が好評であった。

### (4) 行事

季節の変化を感じられるよう、スイカ割り、花火、クリスマス、ひな祭りなど季節に沿った催しを月1回程度のペースで実施した。また法人の行事や八潮団

地内のお祭り、ふれあい寄席などに参加した。

#### (5) 利用者の健康管理

日常的な観察を重視し、介護士と医師・看護師との連携を図り対応した。また、褥瘡や感染症の予防等も含め、多職種とのカンファレンスを行い早期対応、早期治療を心がけた。終末期に近い状態の利用者については、医師と連絡を取り緊急時の体制を整えた。

一部フロアでインフルエンザの感染者が出た為、医師と協力し予防薬を希望者に処方した。また、環境整備、消毒等を強化した結果、感染者がいる2フロア以外への拡大は防止できた。

#### <入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
30年度	112	1,635	14.6
29年度	99	1,265	12.7
28年度	70	1,584	22.6

#### (6) 食事

献立は季節の食材やメニューを取り入れ、月に一度主菜の選択食を実施した。全体的な栄養状態向上に向け、昨年度に続き喫食率向上の工夫をした。特に緑黄色野菜は皮膚状態にも影響するため、利用者が好みそうな野菜（人参や南瓜等）を多く使用し、青菜はクリーム煮にしたり、メニューによるピーマンを赤ピーマンに変更することで残食が減った。また、栄養状態が低下している方には必要に応じて栄養補助食品を提供し、なるべく負担が少なく栄養が摂れるようにした。

#### <食事形態の状況>

(実人数:人)

	ペースト	極刻み	刻み	粗刻み	一般食	経管栄養
30年度末	18	17	21	11	5	3
29年度末	16	18	19	18	6	3
28年度末	12	17	23	16	10	3

### 4. 会議・研修

#### (1) 研修

法人の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都社会福祉協議会の研修等へ参加した。

また現任研修では、委員会等と関連する研修を実施し、看取りについては、医師が直接施設で講義をした。虐待や身体拘束についての研修も強化している。

#### (2) 会議・委員会活動

法人内特養の生活相談員連絡会を実施し、稼働率向上その他の課題解決に取り組んだ。また役職者等連絡会、委員会活動（事故防止、身体拘束廃止、感染症対策、褥瘡予防、虐待防止）等のほか、隨時ケースカンファレンスを開催した。

### 5. 家族・地域との関わり

#### (1) 家族との連携

5月と11月の2回、事業説明会を実施した。5月は事業報告および上半期の様子について説明した。11月は上半期の報告と実地検査等の報告を行った。

<面会・外出状況>

平成・年度	30年度	29年度	28年度
面会延べ人員	7, 410人	7, 128人	7, 230人

(2) ボランティア

介護補助、レクリエーション等について受け入れを実施した。今後も利用者に対する方針や施設の状況を理解して頂き、ボランティアの受け入れを進めていく。

<活動状況>

(延べ人数)

平成・年度	30年度	29年度	28年度
ボランティア	264人	235人	243人

(3) 実習生

実人員1人（昨年度3人）、延べ日数は10日（昨年度56日）の実習生（社会福祉士）を受け入れた。

(4) 地域社会との交流の推進

地域開放事業の利用調整会議、八潮地区防災協議会に定期的に出席し、八潮南地区の総合防災訓練や美化運動にも参加している。こみゅにていプラザの災害緊急時の管理体制の一環として当施設で鍵を預かり、地域防災訓練を協働で行っている。

## 6. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）

(1) 実施概要　　・定員19名　　居室　1階多床室（4人）4部屋・個室3部屋  
目標稼働率90.0%に届かなかった。職員体制が整わず、下半期の入退所制限実施やリピーターの特養入所が影響し稼働率が低下した。他方では理美容の日程を家族やケアマネージャーに知らせ、その日程に合わせた利用も増えている。1人暮らしや家族が遠方の方については、介護タクシーによる利用者単独での入所のケースや相談員が付き添いとして送迎車へ同乗して受け入れしているケースも増えている。

(2) 利用実績

平成・年度	30年度	29年度	28年度
延べ日数	5, 189日	6, 078日	5, 982日

(3) 稼働率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
稼働率 (%)	74.8	87.7	86.3

## 7. 防災

防災センター（ビル管理業者に委託）と連携し、毎月1回、消火機器の取り扱い・避難誘導・消火活動等の総合防災訓練を複合施設として実施した。また本部との連携の下、自衛消防訓練に参加した。

## 8. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設8年経過）

修繕・改修関係	温冷配膳車冷却ガス漏れ修理、個浴オーバーホール、 グリースストラップ高压洗浄、縁石の復旧工事
環境整備関係	自家発電点検整備・バッテリー交換、高温水熱交換器2方弁交換、
備品購入関係	3階食堂共用テレビ入れ替え

# 平成30年度 グループホーム八潮南事業報告

## 1. 総括

日常の支援では、入居者一人ひとりの生活する姿を描き、「買い物から食事作り、洗い物までの流れを分担して行う」、それが難しい利用者には「意見を述べる機会を作る」等の支援を行い、「共に生活する」ことを意識して支援した。また、昨年から継続して師となる利用者が行う書道は、他入居者の楽しみにつながっている。

入居者3名の看取りケアを行った。本人、ご家族の意向を伺い、ご家族、訪問診療医、介護士が連携し、ご本人が安楽に過ごせるようにケアを行った。

感染症においては、12月末から1月にかけて1つのユニットで蔓延したが、消毒や加湿、衛生管理面の対応を強化したため、もう1つのユニットに感染することなく終息した。

入居者状況としては、30年度は6名の入退居があった。6名の退居理由について4名が事業所内でのご逝去（看取り3名、急変1名）、1名は病院にてご逝去、1名は他事業所への入所であった。事業所内でご逝去された4名のうち、2名が99歳、残り2名が100歳を越えている。29年度末時点では18名のうち10名が90歳を越えており、医療面でのケアが必要な利用者が多いため、訪問看護と契約し8月から定期的な訪問を開始した。

事故については、大きなもので花火の引火による火傷1件、離設による転倒での外傷1件、転倒による骨折2件等があった。その他、ひやりはっと報告を含む事故報告は68件であった。内容は主に、転倒・敷地内までの離設、服薬忘れであった。事故報告については都度ユニット中心に検証を行い、再発を防ぐための取り組みまでをきちんと行うようにした。

第三者評価については、29年度の評価・課題について自己評価を実施し、日常生活での生活リハビリの為の体操の実施や、現場に沿ったマニュアル作成を進めている。

職員関係においては、疾病により夜勤を行えない職員が1名、体調不調による長期休養の職員が2名いたため、夜勤や超過勤務などの負担が増加した。

### (1) 利用者状況

<要介護度>		(平成31年3月31日現在)					単位：人	
要介護度	1	2	3	4	5	合計		
利用者数	5	6	5	0	2	18		

・平均要介護度 2.3 (平成29年度 2.4)

<年齢>		(平成31年3月31日現在)							単位：人	
	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計		
男	0	0	1	0	0	1	0	2		
女	0	1	0	6	3	6	0	16		
計	0	1	1	6	3	7	0	18		

・平均年齢 86.4歳 (29年度 90.8歳) ・最低年齢 72歳・最高年齢 97歳

### (2) 稼働率

平成・年度	30年度	29年度	28年度
稼働率 (%)	95.8	92.9	94.6

## 2. 援助計画

### (1) 日課・週課

入居したことによってこれまでの生活の流れが途切れることなく、地域の一員として社会とつながって生活が出来ることを目指した。また個別ニーズに合わせ、安心して共同生活ができるように支援した。

### (2) 行事

お花見はみんなでお弁当を作り、近隣公園に行き楽しむことができた。また、ゆず湯、お正月、節分、ひな祭りなどの年中行事をユニット単位や合同で行った。八潮地区のフェスティバルやお祭りにも参加した。

### (3) 利用者の健康管理

嘱託医（内科・精神科医）の隔週の訪問診療を基本とし、日常的な健康管理を行った。また、必要な方には、訪問歯科を依頼している。

高齢で介護と医療を必要とする利用者が増えたことで、訪問看護と委託契約を行い、8月から定期訪問を開始した。

#### <入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
30年度	6	65	10.8
29年度	13	233	17.9
28年度	16	259	16.2

### (4) 食事

毎日の食事は入居者の意見を聞き、買い物や調理、片付け等を、入居者・職員と共にしている。入居者の誕生日には、好きなものをリクエストしてもらい、店屋物を活用し、楽しみのひとつとなっている。また、身体の状態に応じて、飲料にとろみをつける、ミキサーにかける、介護食を取り寄せるなど、食べやすく工夫して提供している。

## 3. 会議・研修

### (1) 研修

法人主催の職員研修、品川福祉カレッジへ参加した。外部研修等については、東京都認知症介護実践者研修他、各種案内に基づいて調整している。

### (2) 会議・委員会活動

毎月1回の職員会議のほか、各ユニットでのケース会議を開催した。会議の中で、利用者とのコミュニケーション等をテーマに、スキルアップの研修を継続している。また、定例の運営推進会議を奇数月に計6回開催し、家族や地域関係者にグループホームの生活状況を知らせ、情報交換の機会としている。

## 4. 家族・地域との関わり

### (1) 家族との連携

5月に、事業説明会を実施し、事業経過報告などを行った。また、面会時には本人の状況や医療面の対応について説明し、家族からの意見を聴取してきた。運営推進会議においても家族と施設、関係機関との接点を重視し、要望等を細かく

聞いている。

(2) ボランティア

ほたる鑑賞や歌のボランティアの活動が定着してきている。今後も入居者に対する方針や施設状況の理解を進め、利用者本位で自立につながるボランティアの受け入れを進めていきたい。

(3) 実習生

実人員3人（昨年度3人）、延べ日数は15日（昨年度15日）の実習生（介護福祉士）を受け入れた。

(4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業や、八潮団地内の行事にも参加した。入居者の希望を聞き、地域とのつながりを重視したい。散歩や買い物に出かける際に声をかけてくれる住民もあり、今後も地域の一員として良好な関係を築いていきたい。

5. 防災

防災センター（ビル管理会社に委託）と連携し、特養と合同の毎月1回の総合防災訓練を実施した。

6. 施設管理・環境整備・備品購入等

設備管理については、日常的にビル管理業者担当者と連携し、維持管理に努めた。



# 平成30年度 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告

## 1. 総括

「必要な人に、必要なサービス」を念頭に置き、個別対応を重視したケアに力を入れた。適切なアセスメントにより「利用者を知る」ことから始め、本人のニーズに合わせた対応を取ることを心掛け、サービス提供を行った。必要なサービスの内容は様々であるが、利用者の意欲や身体機能の向上に大きな影響があった。そのため家族の介護意欲も向上し、介護負担の軽減にも繋がっている。

認知症対応型通所介護では、様々に BPSD(認知症周辺症状)のある方を受け入れてきた。「その人を否定することなく、その人自身を人として受け入れる」姿勢を持ち、新たな利用者には、まずは通所することを第一目標にサービスを開始している。通所介護同様、利用者を知ることに努め、適切かつ必要なアセスメントを行い、通所介護計画を作成し、チームケアを実践した。少人数での活動であるため、事前に活動プログラムを決めるうことなく、その日の状況に合わせ職員と活動を行っている。

訪問給食（配食サービス）はニーズが少ないため30年8月末をもって終了した。  
また、一般デイサービスにおいて共生型生活介護を始めるべく指定申請をおこなった。

## 利用者状況 （1）介護保険サービス

### ・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ)

	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症
合 計	5,723	1,907	2,093	4,652	929	2,216	4,907	1,415	1,790
実 施 日 数	307	307	307	308	308	308	308	308	308
1日当たり利用者数	18.6	6.2	6.8	15.1	3.01	7.19	15.9	4.6	5.8
稼 働 率	76.2%		56.5%	77.7%		60.9%	72.4%		58.1%

- 目標稼働率を一般デイは80%、認知症デイを65%としたが達成できなかった。

\*30年度より一般デイの定員を30名→35名に変更している。

- 新規の利用者は要支援者、事業対象者が目立っているが、長期に利用している要支援者が更新調査に合わせ介護に変更される事が多く見られたため、要支援者の占める割合に影響は少なかった。
- 利用終結の理由としては施設入所が多い1年だった。認知症対応型通所介護では特別養護老人ホームへの入所が多く、その他では有料老人ホームへの入所が目立っていた。特に要支援者、要介護1の方の施設入所が多く見られた。

### ・登録者数内訳（要介護度別・人）

31.3.31現在

	一般デイサービス									認知症対応デイサービス								
	30年度			29年度			28年度			30年度			29年度			28年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象	0	5	5	1	1	2	1	4	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援1	2	14	16	0	14	14	4	13	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0

要支援2	5	11	16	3	14	17	1	7	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	6	21	27	8	17	25	11	19	30	0	4	4	1	6	7	1	3	4
要介護2	5	12	17	7	7	14	6	10	16	1	3	4	1	1	2	1	1	2
要介護3	1	8	9	1	6	7	2	8	10	0	3	3	1	3	4	1	4	5
要介護4	1	4	5	0	2	2	0	1	1	1	4	5	1	5	6	0	3	3
要介護5	0	1	1	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	1	1	2
合 計	13	46	59	16	34	50	25	64	89	2	16	18	4	17	21	4	12	16

## (2) 介護保険外サービス(訪問給食/通所サービス)

サービス (訪問給食/ 通所サービス)	平成30年度		
	平成29年度		
	平成28年度		
	サービス提供数/回	302	887
実施日数/日	308	308	308
	1日当たり利用者数/人	2.30	2.87

\* 平成30年8月末から訪問給食を休止している。

## 3. 援助経過

### 年間プログラム

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月1日(月)～5日(金)	87
くつろぎ祭り	10月13日(土)	15
ゆず湯	12月17日(月)～21日(金)	89
餅つき	12月22日(土)	14
新年会	1月4日(金)～10日(木)	182
豆まき大会	2月1日(金)	20

上記行事の他、外出行事も実施した。

- ① 喫茶・軽食(華屋与兵衛)：平成30年11月12日～12月12日(計16組73名参加)
- ② 散策(青山・恵比寿等)：平成30年12月10日、同11日、2月15日  
(計3組12名参加)

## 4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 連絡ノート等を活用し家庭での様子・利用中の状況を互いに把握するよう努めた。  
活動状況については、写真を多用し利用者の状況が詳しく伝わる事を意識した。
- (2) 行事、日常生活の支援等にボランティアを積極的に受け入れた。
- (3) 祭礼行事や、防災訓練、清掃活動等を通して、地域の方との交流を深めた。
- (4) 複合施設全体として地域開放事業「くつろぎ祭り」「もちつき」を実施している。  
「もちつき」は防災炊き出し訓練と合わせての実施であることを明確に位置付け、  
来場者には当施設の機能(福祉避難所・AED設置・こども110番等)を案内した。

## 5. 「身近でトレーニング」利用者数実績

30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	29年	28年
実施回数	13	13	10	13	13	10	23	22	18	20	20	17	192	146	143
登録利用者数	55	55	52	52	52	52	60	61	61	61	61	61	683	414	445
延べ利用回数	194	196	144	150	178	142	240	190	164	177	176	159	2,110	1,301	1,319

# 平成30年度 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告

## 1. 総括

引き続き日々のサービス向上に努め、特に15時以降のプログラムについて、利用者の送迎を行いつつ、いかに利用者が楽しめるプログラムを実施できるかを検討し、実践した。運営面では、介護報酬の改定に伴い、定員を平日30名から35名に増員した。また、新規利用や増回、変則的な利用希望等にもできるだけ添うようにし、ケアマネージャーとの連携にも努め、稼働率の向上を図ったが、施設入所や体調不調による入院等で、目標稼働率には及ばなかった。

利用者状況としては、以前に比べて少しずつ要支援の方の利用が増えており、介護の方では要介護4・5の方の利用は引き続き多くなっている。職員体制は非常勤職員の異動(内部登用)により、その補充ができないため常勤職員を1名増員した。介護士、看護師の体調不調等により長期休暇もあったが、協力して対応した。リハビリについて、前年度末非常勤の理学療法士が退職し、その補充に手間取ったが、8月より新規採用ができ個別リハビリを再開した。

## 2. 利用者状況 (1) 介護保険サービス

年間利用者数及び稼働率 (一般、総合事業・予防、対象外)

	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	一般	総合	対象外	一般	予防	対象外	一般	予防	対象外
男性	1,916	356	0	1,749	368	0	1,561	402	17
女性	4,524	762	0	4,483	737	0	4,637	1,211	0
合計	6,448	1,118	0	6,232	1,105	0	6,198	1,613	17
実施日数	307	307	0	308	308	0	308	308	17
1日の人数	21.0	3.6	0	20.2	3.5	0	20.1	5.2	1
稼働率	75.7			84.1			89.5		

登録者数内訳(要介護度別 H31.3月現在)

	一般デイサービス								
	30年度			29年度			28年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	1	2	3	0	1	1	1	1	2
要支援1	3	6	9	2	8	10	1	11	12
要支援2	3	14	17	1	1	2	3	6	9
要介護1	5	7	12	10	16	26	11	22	33
要介護2	3	16	19	7	10	17	4	11	15
要介護3	5	10	15	14	11	25	5	5	10
要介護4	6	4	10	2	6	8	4	5	9
要介護5	2	3	5	2	5	7	1	1	2
合 計	28	62	90	38	58	96	30	62	92

(2) 介護保険外サービス（訪問給食／通所給食）

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
食数	1,541	1,428	1,616
実施日数	307	308	308
1日あたりの利用者数	5.0	4.6	5.2

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数 (利用者参加数)
外出行事（カレッタ汐留）	9月26日	4名
外出行事（カレッタ汐留）	10月11日	4名
外出行事（カレッタ汐留）	10月19日	3名
外出行事（カレッタ汐留）	10月22日	4名
外出行事（カレッタ汐留）	11月14日	4名
外出行事（カレッタ汐留）	11月20日	4名
ぽっかぽかクリスマスコンサート	12月22日	40名(21名)
カフェぽっかぽか	2月23日	40名(18名)

4. 家族、社会との関わり

- (1) 家族へは連絡ノートや電話による状況報告を実施している。また、支援センターにも適宜、連絡・報告をして連携を図っている。
- (2) 介護者教室は認知症や転倒予防等について、専門職による講義等を6回行い、そのうち2回は本部で行われたオレンジカフェと併せて実施した。
- (3) ボランティアは、サークル活動、企業ボランティア等が入っている。ボランティアによるイベントも多く開催できた。
- (4) 地域開放事業として、12月に「クリスマスコンサート」を実施し、また、「認知症カフェ」は「カフェぽっかぽか」として行った。

5. 介護予防事業

「マシンでトレーニング」の利用者は、前期・後期共に定員10名で実施だが、体調不調で中止になった方もいた。途中からの参加する方もおり、年間では延べ362人の利用となっている。

6. 防災

毎月支援センターと合同で防災訓練を実施した他、年2回「サンかもめ」と、3月には「八潮わかくさ荘」も含めた総合訓練を実施している。

7. 設備関係

厨房の冷房設置等の工事を3週間かけて実施した。その間の食事は宅配弁当を手配し、汁物はサンかもめ厨房にて給食委託業者に依頼し、無事完了できた。

その他、利用者定員増に伴い食事テーブルを購入した。また、加湿器の増設等も行い、利用者、職員関係ともに環境整備に努めた。

# 平成30年度 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告

## 1. 総括

- ・一般通所介護では土曜日を休業したため、稼働率が減り大幅な減収となった。
- ・男性向け趣味活動の場としての認識が高まり、男性利用者の地区外からの利用もある。
- ・趣味活動の充実、要介護対象者には楽しんで行えるリハビリ体操を提供し、本人や家族のニーズに対し、きめ細やかな対応に努めた。
- ・多世代交流というテーマに基づき、利用者がサービスを受けるだけではなく地域の児童施設に出向き、持っている才能を用いて子ども達を楽しませ、いつまでも地域社会に繋がり続ける手助けを行った。
- ・ボランティア依頼を積極的に行いサークル活動を充実させ、演芸系のボランティア来所時は、近隣の認知症対応型通所介護の利用者をお招きし、地域交流を行った。
- ・認知症対応型通所介護では、引き続き身体機能能力の高い方を対象とし、残存機能の活用のため趣味活動の充実と、利用者の願いを活かした活動を目指した。また、身体能力の維持のため散歩等を実施し、筋力維持に努めた。
- ・認知症対応型通所介護では、新規顧客を獲得することが出来なかった。

## 2. 利用者状況

### (1) 介護保険サービス

- ・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) 31.3.31 現在

	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
総 計	5,470	1,468	2,588	6,426	1,517	2,640	5,859	1,608	2,667
実 施 日 数	265	265	307	304	304	308	308	308	308
1日当たりの利用者数	20.6	5.5	8.4	21.1	4.9	8.7	19.0	5.5	8.7
稼働率(%)	80.2%		51.8%	94.4%		73.5%	85.7%		86.5%

- ・登録者数内訳（要介護度別）

31.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	30年度			29年度			28年度			30年度			29年度			28年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要支援1	2	6	8	2	8	10	4	6	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	3	11	14	2	6	8	1	8	9	0	1	1	0	1	1	0	1	1
要介護1	16	23	39	14	20	34	11	16	27	2	5	7	1	8	9	0	9	9
要介護2	3	6	9	3	9	12	4	11	15	0	2	2	2	7	9	2	5	7
要介護3	1	2	3	3	5	8	2	5	7	0	2	2	0	0	0	0	2	2
要介護4	1	4	5	0	3	3	0	7	7	0	2	2	0	3	3	0	5	5
要介護5	0	1	1	1	1	2	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者	0	3	3	1	4	5	1	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	26	56	82	26	56	82	23	62	85	2	12	14	3	19	22	2	22	24

・稼働率は昨年度から比較すると一般デイが14.2%、認知症デイが21.7%減少。一般通所介護においては、近隣の通所介護事業所がリハビリと短時間通所介護を開始したため、顧客がそちらに流れ大井の登録者数が増えなかつた。また、認知症対応型通所介護においては、年度当初に転居や施設入所などが続き、新規の利用者を獲得することができず、年間稼働率に大きな影響を与えた。今後、登録者数を増やして行くには、集客力のあるプログラム作りプロジェクトを開始している。

### 3. 援助経過

#### 年間プログラム

行 事 名	開 催 日	参 加 人 数
菖 蒲 湯	5月1日～5日	139名
ゆ ず 湯	12月17日～22日	143名
節 分	2月1日（金）	28名

上記行事の他、外出行事も実施した。

- ① 初詣：平成31年1月4日～1月7日（18名参加）
- ② 花見：平成31年3月27日～4月5日（15名参加）

### 4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 電話、連絡ノート等を活用し介護士・看護師が家族等と密に連絡を取るように努めた。
- (2) 介護者教室を1回実施し、利用者の家族や地域住民に呼びかけ参加を促した。介護の知識習得と共に介護者の意見交換及び気分転換の場になった。
- (3) 利用中のご家族への事業者説明会を実施し、認知症通所介護においては町会長や民生委員の方々をお呼びし、運営推進会議を2回実施した。

### 5. 介護予防事業

参加者の低迷から、事業を休止している。

### 6. 防災

毎月1回定期的に火災想定訓練又は地震想定訓練を行い、年に1回、高齢者住宅わかくさ荘との合同避難訓練を実施した。また、消防署職員の立ち会いをしていただいた。

### 7. 設備関係

- ・建物や備品等の老朽化に対して、排水管の交換、水道栓の交換を行った。

# 平成30年度 在宅介護支援センター事業報告

## 1. 総括

- (1) 地域包括支援センターの機能【1) 総合的な相談窓口・権利擁護機能 2) 介護予防マネジメント 3) 包括的・継続的マネジメント】等について、品川区高齢者福祉課と連携し、一人ひとり丁寧に対応してきた。特に盛夏には高齢者の熱中症の予防策として、水分補給の重要性を伝えると共に必要に応じ経口補水液を配付しつつ、個別の状況把握に努めた。
- (2) (地域型) 在宅介護支援センターとして、各地域に生じている福祉ニーズを把握し、個別相談を進めるとともに、総合的な地域福祉力の向上を図るよう関係機関と連携した。特に医療機関や民生委員との連携強化を図り、認知症サポーター養成・見守りネットワークの構築などのほか、防災関係の情報提供や、住宅高齢者の緊急時の不安を解消できるよう地域づくりに力を入れた。
- (3) 居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、利用者・家族に対して適切なアセスメントを実施した。そのことに基づき、一人ひとりに対して公正中立で利用者本位のケアマネジメントを実施した。
- (4) 認知症高齢者の対応や高齢者虐待の防止および成年後見制度の活用等について、適切な支援につながるよう高齢者福祉課や各関係機関とも連携を図った。また、入退院時のサービスに関する連絡調整・施設入所に関する相談や手続き代行など、在宅生活の継続や適切な施設利用につながるよう調整に努めた。

## 2. 地域づくり等

- (1) 八潮在宅介護支援センターでは、定例の地区ケア会議の中で多職種による事例検討を重ねることで、地域が抱える課題について考えてきた。認知症サポーター養成講座は地域住民や団体からの要請に応える形で年間3回実施した。認知症サポート一レベルアップ事業も養成講座修了者を対象に実施し好評であった。また、「図書館カフェ」など地域で行われている「認知症カフェ」で認知症に関するミニ講座を行うなど啓発、情報提供に取り組んできた。今後も引き続き、地域活動の推進を図っていきたい。
- (2) 中延在宅介護支援センターでは、地区ケア会議での個別ケース検討を通じて地域課題の把握に努めた。また、30年度より発足した品川区介護支援専門員連絡協議会（通称：ケアネットしながわ）においても複数名が会員となり、荏原東地区の地区会に参加して地域特性について意見交換をおこなった。その他、複合施設のロビーを活用し、誰もが集まる場としての「喫茶せせらぎ」を開催した。高齢者に限定せず、障害のある方や子育て世代の方等、誰でも自由に立ち寄れ、気軽に話せる交流の場を目指した。傾聴ボランティアの協力も得て毎月1回の開催が定着した。
- (3) 大井・大井第二在宅介護支援センターでは、地区ケア会議では事例検討の機会を多く持ち、個別の事例から地域の課題までを取り上げた。認知症サポーター養成講座は年間3回行い、そのうち大井三丁目高齢者憩いの場において2回実施し、認知症サポート一レベルアップ事業も上記の場所にて実施し好評であった。

### 3. 支援経過（相談実績）

	中延	大井	大井第二	八潮
介護保険制度の説明・相談	440	197	182	336
要介護認定	644	261	267	427
基本チェックリスト	39	7	6	17
訪問介護	745	409	69	368
訪問入浴	22	8	3	5
訪問看護	377	260	40	253
訪問リハビリテーション	94	16	4	21
通所介護	1,134	497	87	660
通所リハビリテーション	30	50	4	14
短期入所	255	114	39	118
福祉用具貸与	378	185	65	303
福祉用具購入	41	19	11	40
住宅改修	67	44	61	29
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	0	0	0
夜間対応型訪問介護	3	4	0	2
(看護)小規模多機能型居宅介護	15	4	2	5
総合事業サービス	0	2	10	180
一般介護予防事業	5	4	1	2
区独自サービス	37	24	5	73
特別養護老人ホーム	45	14	16	21
老人保健施設	105	19	23	16
介護療養型医療施設	0	1	0	0
養護老人ホーム	6	0	0	4
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	12	5	7	1
特定施設入居者生活介護	71	5	7	8
その他の住宅	105	52	9	17
医療・保険・健康相談	1,906	996	206	474
認知症	113	58	134	45
成年後見	29	31	6	3
虐待	39	0	20	1
安否確認	104	34	17	30
苦情	48	4	6	9
経済的問題	62	22	7	9
家族問題	52	20	5	12
その他	99	44	73	34
支援経過連携	11,840	6,196	10,750	7,811
年 計	18,966	9,606	12,142	11,348

### 4. 給付管理件数（平成30年度平均）

	介護給付	予防給付	総合事業
八潮	156	54	53
中延	184.4	101.8	106
大井	94	40.3	53
大井第二	123	57	60

# 平成30年度 八潮わかくさ荘事業報告

## 1. 総括

八潮わかくさ荘は、4～8階の40戸の単身者用高齢者住宅の管理及び緊急時の対応を行なった。平均年齢82.4歳、要介護認定又は事業対象者の認定を受けている方が13名おり、内10名がヘルパー派遣等の介護保険サービスを利用している。1年間に退居した方は4名、新入居者は5名と昨年度に比べれば入れ替わりは少なかったが、満室になることがなく、入院者も続いている。

新規入居者でもすでに日常生活に何らかの支援が必要だったり、心身状態の変化に対応して支援が必要になる方が続いており、その都度家族や各関係機関へ連絡、調整等を行っている。また、同一建物にあるデイサービスで実施している通所介護や配食、通所給食の利用の他、介護者教室や介護予防事業等への参加もあり、連携した対応ができている。

夏場に熱中症予防を呼びかけていたが、居室内で逝去した方がいた。また、居室内配管から下階への水漏れが年末にあり、原因調査や対応に苦慮した。最終的には空き室に移ってもらい、居室のメンテナンスを行っている。

## 2. 入居者状況

入居者の心身状況の変化に伴い、日常生活についての相談やサービス調整等に支援センター、区、各関係機関と連携した。また、昼夜にわたって様子伺いを実施するなど、デイサービス、支援センター、ワーデン（管理人）が一丸となって対応を続けている。3月末現在入居者38名、内要介護認定、事業対象者は13名となっている。また、入院者が4名いる。要介護の方の退居が進み、サービス利用者は減っている。

（入居者の介護サービス利用状況） 平成31年3月31日現在（入院者除く）

	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食
平成30年度	2名	4名	2名
平成29年度	2名	4名	3名
平成28年度	12名	9名	3名

## 3. 設備管理

建物の老朽化が進んでおり、各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。

## 4. 防災訓練

60号棟との合同防災訓練、八潮地区総合防災訓練、八潮在宅サービスセンター、支援センター、サンかもめ合同の総合防災訓練に参加した。

## 5. その他

ワーデン業務については、非常勤職員3名を雇用し対応している。



## 平成30年度 大井倉田わかくさ荘事業報告

### 1. 総 括

大井倉田わかくさ荘は、2階建て建物の1階部分計8戸の小規模な単身者用高齢者住宅である。この住宅の管理は、夜間、警備保障会社による、生活動作確認・非常通報・火災検知を24時間機械警備を実施した。平日の昼間は同敷地内に隣接する大井在宅サービスセンター（在宅介護支援センター）が、様々な相談を受けている。

基本的には自立・自活されている高齢者が入居しているが、8名中、3人が要介護認定を受け、1人が予防認定を受けそれぞれ介護サービスを受給している。

### 2. 入居者状況（平成31年3月末現在、8名入居）

救急要請し入院された後に在宅困難と判断され特別養護老人ホームの一時入所を経て、有料老人ホームに入所された。また、認知症状が見られ介護保険新規申請をし、財産管理のため成年後見制度を2名の方がご利用されている。一方では就労をされ、仕事で夜間自宅に帰られない方が1名おられる。

（入居者の介護サービス利用状況）

平成31年3月31日現在

	ヘルパー利用者	デイサービス	訪問看護	福祉用具
平成30年度	2名	3名	1名	2名
平成29年度	1名	3名	1名	0名
平成28年度	1名	3名	0名	0名

### 3. 設備管理

各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。消防設備の点検（年間2回）を実施した。敷地内清掃を毎月実施。

### 4. 防災訓練

サービスセンターとの避難訓練（10月8日）に参加を呼びかけた。当日はデイサービス厨房から出火想定とし、8名中4名の参加があった。

### 5. その他

警備会社の警報発報による出動が　　回あった。そのほとんどが、機器の誤作動であり、生命に危険があったケースはない。



# 平成30年度 大井三丁目高齢者憩いの場事業報告

## 1. 総括

地域包括ケアシステムの方針である、『いつまでも、住み慣れた地域で暮らす』という在宅完結ケア型を指向し、地域で助け合いながら安心して、ゆとりある老後を過ごせる『ともにいきるまち』の小さな拠点づくりを進め、地域住民、ボランティア、関係機関等が「参加」「話し合い」「協働」し合う福祉拠点運営をすすめた。

平成29年度開設から2年目となり、高齢者を中心に多世代交流を進める地域の福祉拠点つくりを目指し事業を進めた。事業は小規模な施設を最大限活用し、「誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場」作りを品川区社会福祉協議会と連携し、進めた。

29年10月から開始した地域ミニデイもボランティア等の活動を盛り込み軌道に乗っている。9月には地域交流事業（こすもすパーティー）を実施、多くの地域住民の来場を得ている。

当事業の実際の運営に専属職員はおかげ、法人内事業所からの委員により運営委員会を組織し、事業を企画、準備、分担、実施してきた。その過程で地域のボランティア、関係機関の協力を得て事業に厚みが加わり、さらに地域交流が進んだ。

## 2. 重点目標

- ・安心して生き生きと住み続けられる『ともにいきるまち』の創造
- ・住民同士の相互交流が進み、生きがいを育む活動やコミュニティの形成
- ・多世代交流を進め、共助が自然と身につくまちの小さな拠点づくりの推進

## 3. サービス・事業内容

### (1) 地域の高齢者や障害者、子育て世代等の憩いの場・交流の場

- ①ほっとサロン：品川区社会福祉協議会登録団体に部屋を貸し出し、外出機会の少ない高齢者を中心とした多世代の地域交流の場とした。
- ②縁側カフェ等を通じて、会話の機会の乏しい高齢者等が、定期的に外へ出ていくことのできる場、会話を楽しみ、安心してくつろげる場を提供し、閉じこもり防止、生活活性化等の介護予防・自立支援を促進した。
- ③園芸療法を用いて、菜園を利用した土いじりや草花や野菜などの園芸活動や、身の回りにある自然との関わりを通して、心身の健康維持、回復を目指した。
- ④家族等を介護している同士のコミュニケーションを促進し、リフレッシュを行うことできる集いの開催。
- ⑤毎月第2・4土曜日、「ひなたぼっこ」と銘打ち多世代交流のワークショップを開催、創作活動、料理教室を通じ、高齢者や子どもたちが集い、

楽しみ自然な福祉教育の機会となっている。

⑥ピンコロ道場は平成31年3月より地域ミニディ事業の卒業生の行き場作りとして健康体操を中心に月曜日の午前中に開催した。

⑦9月に地域交流事業「こすもすパーティー」を開催、近隣地域住民との交流の中から、福祉ニーズを検証する機会、高齢者福祉啓発の機会として地域交流事業を実施した。芋煮、ライスおやきのおもてなしコーナー、地域交流・事業啓発として園芸療法紹介、マッサージ体験他を行った。

#### (2) 学びの場

- 認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座の開催

認知症対策プロジェクト「くるみぶらん」の柱のひとつである「認知症理解の一層の推進」を実現し、認知症があっても住み慣れた地域で生活をし続けるまち「しながわ」の実現に向け、認知症の理解に向けた啓発活動の充実を図った。

#### (3) 介護予防事業

- 地域ミニディの開催

介護予防・日常生活支援総合事業としてボランティアによる地域ミニディサービスを実施、健康作り体操等高齢者の介護予防を進めた。

#### (4) その他

- 夏期は品川区の「避暑シェルター」事業による水分補給の場として多くの区民の利用があった。

事業名	開催回数	利用者数(人)		備考
		30年度	29年度	
縁側カフェ	---	696	316	
園芸療法	40	233	186	
地域ミニディ	51	352	308	29年10月開始
ピンコロ道場	3	15	---	30年3月開始
「ひなたぼっこ」	21	210	171	多世代のふれあい遊び
その他	---	2462	1246	避暑シェルター他
こすもすパーティー	1	117	164	地域交流事業(9月)
合計(直営事業)	---	4085	2514	

ほっとサロン	85	326	161	品川ボランティアセンター事業
フリースペース 「よりみち」	47	200	180	大井第二地区支え愛・ほっとステーション